

# 令和4年度 岐阜大学Topics





# — 目 次 —

## 【教育】

- ・ 令和4年度入学式を挙行 ..... 2
- ・ 「ぎふハイスクールサット(GHS)プロジェクト」の開始に伴うキックオフイベントを開催 ..... 3
- ・ 令和4年度 NITS・教職大学院等コラボ研修「インクルーシブ教育時代の校長先生を支える特別支援教育マネジメント研修」を実施 ..... 4
- ・ 令和4年度大学教育再生戦略推進費「地域活性化人材育成事業～ SPARC ～」に採択 ..... 5
- ・ 岐阜大学、中部学院大学、岐阜市立女子短期大学共同記者会見を実施 ..... 6
- ・ 宇宙工学講座特別講演会を開催 ..... 8
- ・ 気象データアナリスト養成プログラムを開講 ..... 9

## 【研究】

- ・ 岐阜大学工学部 木下幸治 准教授 及び 木村友亮 助教が科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞 ..... 11
- ・ 岐阜大学教員の研究を動画で紹介する「GU Research」を開始 ..... 13
- ・ 工学部 吉野 純 教授が気象庁長官表彰を受賞 ..... 14
- ・ 平島一輝特任助教が「マンスフィールドーPhRMA研究者プログラム」に選出 ..... 15
- ・ 本学工学部リム リーフ教授が日本分析化学会女性 Analyst 賞を受賞 ..... 16
- ・ 文部科学省補助金事業 令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）に採択 ..... 17
- ・ 大学生のメンタルヘルスを可視化するシステムを開発 ..... 18
- ・ One Medicineトランスレーショナルリサーチセンター開所式を開催 ..... 19
- ・ 環境再生保全機構「環境研究総合推進費」令和5年度新規課題に採択 ..... 20

## 【国際化】

- ・ 「Glocal Lesson」の提供を開始 ..... 22
- ・ 南フロリダ大学の学生が学長を表敬訪問 ..... 23

# — 目 次 —

## 【国際化】

- ・ 「留学生と日本人学生のための能楽(能・狂言)ワークショップ」を開催 ..... 24
- ・ 令和4年度大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業  
～ インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～」に採択 ..... 25
- ・ COP27で地方創生エネルギーシステム研究センターがセミナーを開催 ..... 26
- ・ 本学工学部長および応用生物科学部長がマレーシア国民大学を訪問 ..... 27
- ・ 吉田和弘学長が日印大学等フォーラムで大学間交流に関する講演を実施 ..... 28

## 【社会貢献】

- ・ 岐阜県野生動物管理推進センターを設置 ..... 30
- ・ 大野町と連携に関する包括協定を締結 ..... 31
- ・ 文部科学省「情報ひろば」企画展示で岐阜県と本学の協働について  
紹介する展示を実施 ..... 32
- ・ 坂祝町と連携に関する包括協定を締結 ..... 33
- ・ 関ヶ原町と連携に関する協定を締結 ..... 34
- ・ 産学金官連携人材育成・定着プロジェクト「成果発表会」を開催 ..... 35

## 【大学病院】

- ・ 救命救急センターの充実度評価において「S評価」を取得 ..... 37
- ・ 令和4年度多数傷病者受入訓練を実施 ..... 38
- ・ 5G 通信を活用した4K 映像伝送システムとリアルタイム字幕解説を  
併用した医療者教育における遠隔授業の実証実験を実施 ..... 39
- ・ 男女の消化器外科医による手術成績は同等 — 女性消化器外科医の  
さらなる活躍に向けて — ..... 41
- ・ 総合患者サポートセンターを開設 ..... 42



## ～ 学生活動等 ～

- ・ 本学学生チームが「第14回学生金型グランプリ プレス用金型部門」で金賞及び(一財)産業デザイン賞を受賞 ..... 44
- ・ 本学学生チームが「Tongaliビジネスプランコンテスト2022」で最優秀賞等を受賞 ..... 46
- ・ 教育学研究科修了生の赤松選手が世界陸上 男子走高跳の予選に出場 ..... 48
- ・ 環境サークルG-ametが「ともいきSDGsシンポジウム チャレンジアワード 東学」において東海学園賞を受賞 ..... 50
- ・ 「ISO14001内部環境監査員養成研修」修了証書授与式を実施 ..... 51
- ・ 本学学生が未来博士3分間コンペション2022において Springer Nature Awardを受賞 ..... 52
- ・ 「考えようSDGs！エコ活動啓発ポスターコンクール」を開催 ..... 53
- ・ 本学学生が「キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」で教員審査委員賞を、「ビジネス創造コンテスト」で最優秀賞等を受賞 ..... 55
- ・ 「本学教育学研究科を修了した赤松諒一さんが第10回アジア室内陸上競技選手権大会で優勝 ..... 56

## ～ その他 ～

- ・ 第73回創立記念日行事を開催 ..... 58
- ・ サステイナブルキャンパス評価システム(ASSC)におけるプラチナ認証を取得 ..... 59
- ・ 大藪千穂 副学長(多様性・人権・図書館担当)が第8回女性技術者育成功労賞を受賞 ..... 60
- ・ 岐阜大学が「ぎふし共育・女性活躍企業」に認定 ..... 61
- ・ 第73回岐阜新聞大賞 ..... 62
- ・ 第1回岐阜大学フォト&アートコンテスト表彰式を実施 ..... 63

## ～ その他 ～

### 〔国立大学法人東海国立大学機構〕

- ・ 東海国立大学機構・ドワンゴ・KADOKAWAによる包括的提携協定の締結 ..... 64
- ・ 東海国立大学機構カーボンニュートラル推進室主催 記念シンポジウムを  
開催 ..... 65
- ・ 国立大学法人東海国立大学機構環境報告書2022を公表 ..... 66
- ・ 財務レポート2022を発行 ..... 67
- ・ 「サステイナブルキャンパス賞2022 大学運営・地域連携部門」を受賞 ..... 68
- ・ 東海国立大学機構統合報告書2022を発行 ..... 69
- ・ 「ヒューマングライコームプロジェクト」本格始動！ ..... 70
- ・ 富士通株式会社との包括的な産学連携に関する協定書を締結 ..... 71
- ・ 「第31回地球環境大賞 文部科学大臣賞」を受賞 ..... 72

# 教育



- ・令和4年度入学式を挙行
- ・「ぎふハイスクールサット(GHS)プロジェクト」の開始に伴うキックオフイベントを開催
- ・令和4年度 NITS・教職大学院等コラボ研修「インクルーシブ教育時代の校長先生を支える特別支援教育マネジメント研修」を実施
- ・令和4年度大学教育再生戦略推進費「地域活性化人材育成事業～SPARC～」に採択
- ・岐阜大学、中部学院大学、岐阜市立女子短期大学共同記者会見を実施
- ・宇宙工学講座特別講演会を開催
- ・気象データアナリスト養成プログラムを開講



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立  
大学機構



岐阜大学

## 令和4年度入学式を挙行

### 【概要】

本学は、令和4年4月7日（木）に令和4年度入学式を長良川国際会議場にて行い、学部学生1,352名、大学院学生596名が入学しました。なお、式典は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため3回に分けて執り行い、コロナ禍前の平成31年以来、3年ぶりに全ての入学生が出席できる入学式となりました。

吉田学長は、学部入学生への告辞で「大学における勉学は、自分の責任において社会人としてなす行動でもあるということを感じて欲しい」、大学院入学生へは、「これから研究をする上で、必ず越えなくてはならない壁や難題に遭遇すると思いますが、決して諦めず "初志貫徹" を目指して努力して欲しい」と激励しました。

式典では、大学院入学生を代表して地域科学研究科の見山 寛奈さん、学部入学生を代表して社会システム経営学環の中嶋 萌さん、工学部の小野 凌世さんが宣誓を行い、「学業や研究に専念し、輝かしい未来に向かって日々努力する」などと抱負を語りました。



入学式の様子



宣誓する社会システム経営学環 中嶋さん

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/4/8	岐阜	学業・研究に日々努力 3年ぶり 岐阜大, 全入学生で式典 ～ 社会システム経営学環 中嶋 萌さん ～
2022/4/8	中日	「未来へ向かって日々努力」 岐阜大で入学式 ～ 吉田和弘 学長, 社会システム経営学環 中嶋 萌さん ～
2022/4/8	読売	岐阜大で入学式 全新生が出席 3年ぶり ～ 吉田和弘 学長, 応用生物科学部 服部吾郎さん ～

## 「ぎふハイスクールサット(GHS)プロジェクト」の 開始に伴うキックオフイベントを開催

### 【概要】

宇宙産業を岐阜県の重要な成長産業として位置づけ、将来の「中核産業」として育成・支援するため、令和3年度に、岐阜大学と岐阜県等が協働して「ぎふ宇宙プロジェクト研究会（座長：吉田岐阜大学長）」を立ち上げました。このたび、本研究会の取り組みの一環として、岐阜大学が行う人材育成事業の一つである「ぎふハイスクールサット（GHS）プロジェクト」（高大連携事業）の開始に伴い、キックオフイベントを令和4年4月23日（土）に岐阜大学で開催しました。

「ぎふハイスクールサット（GHS）プロジェクト」とは、岐阜大学（地域協学センター・工学部）が例年開催する高大連携事業「宇宙工学講座」「缶サット甲子園」の取り組みを行う中で、岐阜大学が中心となって推進する人材育成事業の一つで、県内高校生を中心とした小型人工衛星の設計・製作・打上げ・運用を一貫して行う実践的な教育プログラムです。

当日は、プロジェクトに参加する県内工業高校4校（岐阜工業高等学校、可児工業高等学校、大垣工業高等学校、岐南工業高等学校）の教員・生徒、県内航空宇宙関連企業等約70名が参加しました。

始めに、吉田岐阜大学長による主催者挨拶、崎浦岐阜県商工労働部長及び堀岐阜県教育長による挨拶があり、その後、研究会・GHSプロジェクトの趣旨説明、はやぶさ2プロジェクトマネージャーのJAXA宇宙科学研究所津田教授による講演および高校生へのメッセージ、KOSEN-1衛星プロジェクトマネージャーの高知高専今井客員教授による講演等が実施されました。また、プロジェクトに参加する高校生が高校混在のチームを作り、今後のプロジェクト実施に向けた提案等を議論するグループワーク・成果発表、それに対する講評（森脇前岐阜大学長、村井工学部長）も行われました。

生徒たちは、今後、岐阜大学の教授及び学生からのアドバイスや県内の航空関連企業などの協力を得ながら小型の人工衛星の製作を進め、2年半後の打ち上げを目指します。



吉田岐阜大学長による開会挨拶



記念写真



# 令和4年度 NITS・教職大学院等コラボ研修 「インクルーシブ教育時代の校長先生を支える特別支援 教育マネジメント研修」を実施

## 【概要】

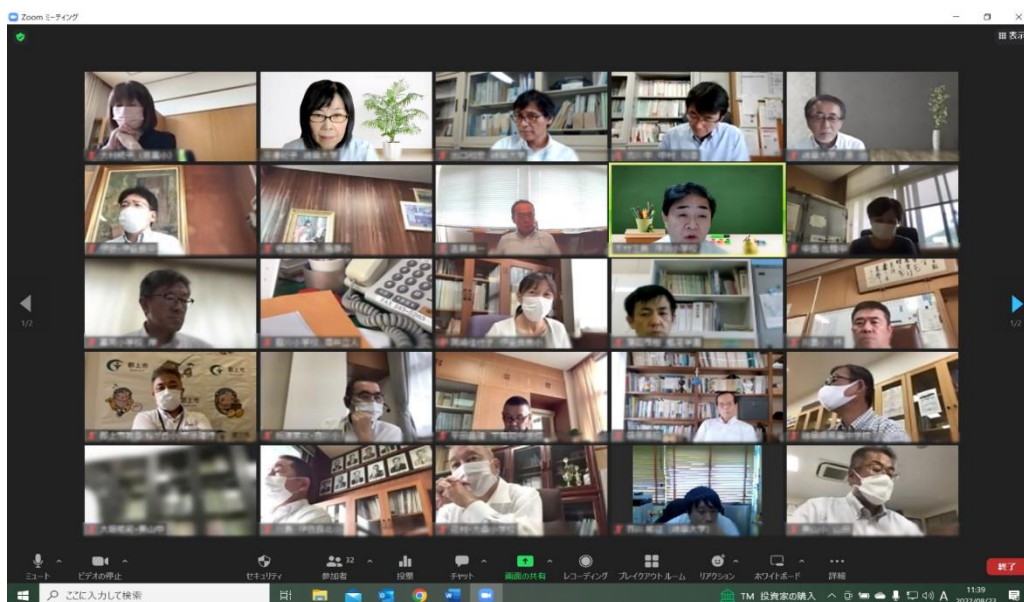
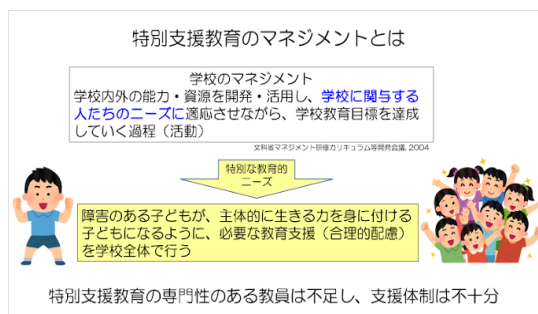
岐阜大学教職大学院は、令和4年8月23日（火）9：30～12：00に、独立行政法人教職員支援機構（NITS）とコラボレーションし、「特別支援教育マネジメント研修」をオンラインで開催しました。

今日、インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の推進が求められています。人材や体制が不十分な中で、校長先生には大変なご苦労があります。そこで、本学教職大学院では、岐阜県教育委員会、岐阜県小中学校長会、山県市教育委員会の協力のもと、県下全ての小中学校の校長先生へのアンケート調査を踏まえて研修コンテンツを作成しました。本研修内容は、事前のオンデマンド動画で特別支援教育の基本知識を学び、ワークショップで自校の充実策を考え、フォローアップで成果を共有するというものです。

当日の研修では、研究協力者の校長先生と「教育支援」、「授業支援」、「人材育成」、「効果的なケース会議」のテーマ別に、ワークショップを行い、グループで、自校の課題を整理し、充実策を検討しました。

本研修を通して、人材や体制が不足する中でも、校長先生がリーダーシップを発揮し、人事や組織運営、外部連携等の充実策を見いだせることが明らかになるなど、有意義な学びの機会となりました。

本成果は、本年12月のフォローアップ研修にて共有し公開する予定です。



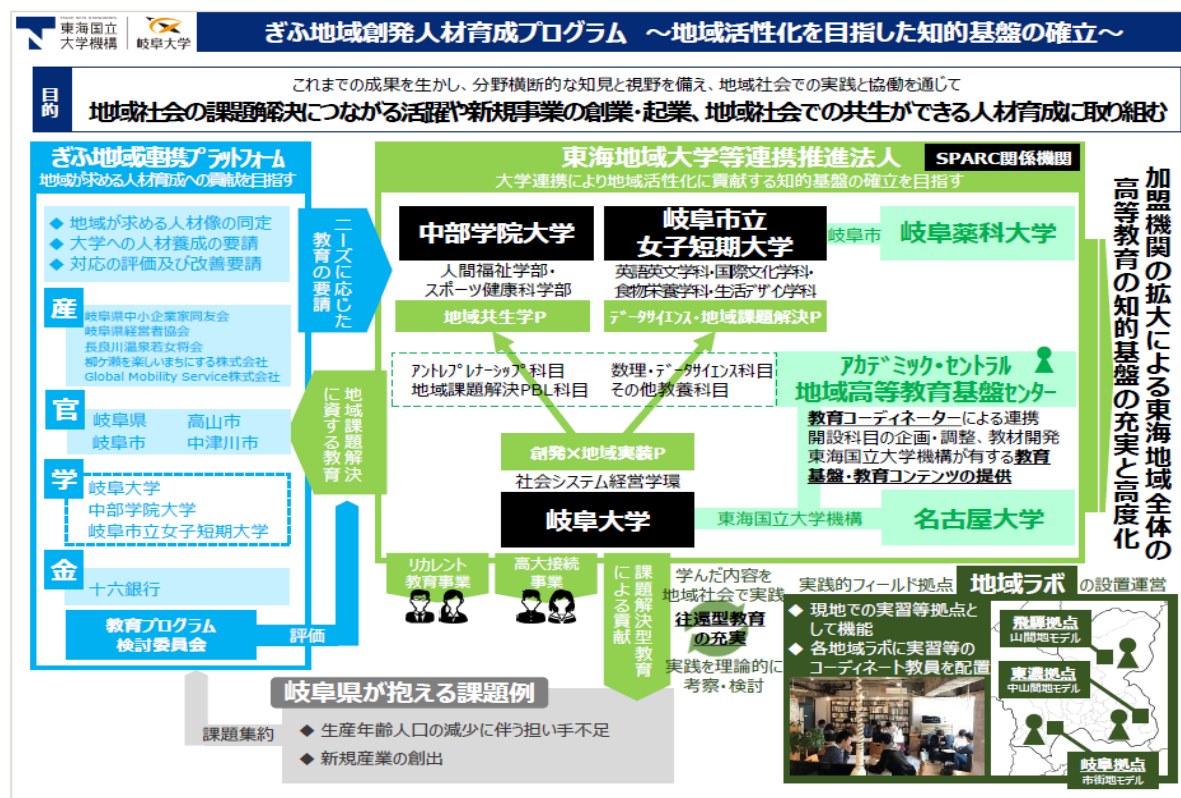
オンライン研修の様子

# 令和4年度大学教育再生戦略推進費 「地域活性化人材育成事業～SPARC～」に採択

## 【概要】

令和4年8月30日、文部科学省が公募する令和4年度大学教育再生戦略推進費「地域活性化人材育成事業～SPARC～」に、本学が事業責任大学となり申請した「ぎふ地域創発人材育成プログラム～地域活性化を目指した知的基盤の確立～」が採択されました。

「地域活性化人材育成事業～SPARC～」は、地域社会と大学間の連携を通じて既存の教育プログラムを再構築し、地域を牽引する人材を育成することを目的とするものです。この趣旨に添い、本プログラムでは、参加校である中部学院大学及び岐阜市立女子短期大学とともに各種の取組を実施し、地域社会の課題解決につながる活躍や新規事業の創業・起業など、地域社会での創発を促す人材の育成を通じ、地域社会の発展に貢献することとしています。



## 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/9/11	岐阜	「推進法人」来年度設立 横断的教育、3大学連携 岐阜大の講義、受講可能に 岐阜大 中部院大 岐阜女子短大 ～「東海地域大学等連携推進法人」 杉山誠 副学長 ～



## 岐阜大学、中部学院大学、岐阜市立女子短期大学 共同記者会見を実施

### 【概要】

令和4年10月25日（火）に、岐阜大学、中部学院大学、岐阜市立女子短期大学の3大学が、令和4年度大学教育再生戦略推進費「地域活性化人材育成事業～SPARC～」採択課題「ぎふ地域創発人材育成プログラム～地域活性化を目指した知的基盤の確立～」に関する共同記者会見を実施しました。

今回の会見には、岐阜大学吉田学長、杉山副学長、中部学院大学江馬学長、岐阜市立女子短期大学畑中学長が出席しました。

SPARCは、文部科学省が本年度から開始した事業であり、地域社会と大学間の連携を通じて、既存の教育プログラムを再構築し、地域をけん引する人材を育成することを目的としています。

この度、岐阜大学が事業責任大学となり中部学院大学および岐阜市立女子短期大学とともに申請した本プログラムは、これまでの大学間連携の活動を基盤として、岐阜県内の設置者が異なる3大学間にて、新たに大学等連携推進法人を結成して教育リソースを共有することで、各大学の教育内容を文理横断的、また、地域課題解決的に再構築することとしています。

また、地域社会の産官学金の各組織により「ぎふ地域連携プラットフォーム」を結成し、地域ニーズの集約と大学教育への反映などに取り組むこととしています。このプログラムにより、岐阜県における地域社会の課題解決につながる活躍や新規事業の創業・起業、地域社会での共生ができる人材育成を通じて、大学が地域社会の発展に貢献することを目指しています。

※ 本事業で設置する法人、組織等の名称は現時点で仮称であり、今後変更となる可能性があります。



記念写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/10/26	岐阜	岐阜大，中部院大，岐阜女子短大 連携 「地域ニーズに応える」 来年度の法人設立を発表 ～ 吉田和弘 学長，杉山誠 副学長 ～
2022/10/26	中日	岐阜大×中部学院大×岐阜市立女子短大 地域課題解決へ人材育成で連携 ～ 吉田和弘 学長，杉山誠 副学長 ～
2022/10/26	朝日	地域活性へ 育て人材 県内3大学がプログラム ～ 吉田和弘 学長，杉山誠 副学長 ～

【テレビ等放送】

放送日等	番組名	内容
2022/10/25	ぎふチャン 「ぎふサテ！」 18:15～18:25	岐阜大学、中部学院大学、岐阜市立女子短期大学 共同記者会見の様子を紹介 岐阜大学 吉田 和弘 学長，杉山 誠 副学長

## 宇宙工学講座特別講演会を開催

### 【概要】

本学工学部は令和4年11月9日（水）、在名古屋米国領事館協力の基、米航空宇宙局（NASA）アジア代表 Garvey McIntosh氏による「宇宙工学講座」の特別講演会を開催しました。

この講演会は岐阜県と岐阜大学が実施する「ぎふ宇宙プロジェクト研究会（座長：岐阜大学 吉田学長）」宇宙人材育成部門の基盤プロジェクト「宇宙工学講座」の一環として実施したもので、県内の高校生、高専生61名を含む約162名のほか、リモートで24名が参加しました。

本講演会では、まずNASAアジア代表を務めているGarvey McIntosh氏により“Launch America”と題し、アポロ計画や国際宇宙ステーションなどNASAのこれまでの取り組みについての紹介と、現在進行している人類の月面への帰還と火星への到達を目指すアルテミス計画についての講演が行われました。続いて、発展プログラムである県内高校生が国際宇宙ステーションからの小型衛星の放出を目指す「ぎふハイスクールサット(GHS)プロジェクト」について、メンバーの岐阜工業高校3年武仲琢磨さんが紹介と報告を行い、McIntosh氏から助言と激励を受けました。その後、県内高校生、高専生とMcIntosh氏、駐名古屋米国領事館の田中里佳氏による意見交換会を行い、宇宙ミッションに携わるために必要なことについて議論を交わしました。

参加者からは講演・意見交換会を通じて多くの質問があり、宇宙ミッションに対する関心が非常に高いことがうかがわれました。今後、GHSプロジェクトを指導、サポートするとともに、関係機関との連携強化も目指したいと思えます。



McIntosh氏による講演



記念撮影の様子

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/11/10	岐阜	宇宙開発 第一人者語る 岐阜大で講演 NASAアジア代表 ～ 工学部主催 ～

## 気象データアナリスト養成プログラムを開講

### 【概要】

本学工学部附属応用気象研究センターは大学院履修証明プログラム※として、大学初となる「気象データアナリスト養成プログラム」を開講します。

本プログラムは、社会人のリスキング（学び直し）として、気象や気候の影響を受けやすい様々な産業界の社会人を対象に、気象データを正しく読み解き、気象リスクに応じて最適な意志決定できる「気象データアナリスト」を育成するプログラムです。本学大学院自然科学技術研究科の専門科目8単位（合計96時間）からなる履修証明プログラムであり、リモートによる受講（オンライン・オンデマンド）を可能として全国の社会人の受講しやすさに配慮して開講します。詳細は気象データアナリスト養成プログラムページ (<https://www1.gifu-u.ac.jp/~amet/wda.html>) をご覧ください。

### 〔プログラム概要〕

【運営】東海国立大学機構 岐阜大学工学部附属応用気象研究センター

【講師】吉野 純、小林智尚、玉川一郎

【募集人数】15名程度

【受講料】35万円

【受講資格】日本の大学を卒業した者、または大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

【受講期間】1年間（令和5年4月1日～令和6年3月31日修了予定）

【申請期間】令和5年2月20日（月）～令和5年3月7日（水）17:00

【その他】本プログラムは経済産業省「第四次産業革命スキル習得講座」及び気象庁「気象データアナリスト育成講座」の認定を受けています。

### ※ 履修証明プログラム：

学位課程より短期間のプログラムを学生以外に提供するものとして、平成19年に創設されたプログラム。社会人の学び直し手段として浸透しています。

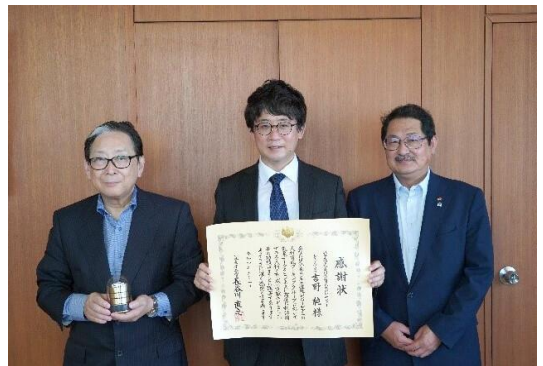
### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/2/21	岐阜	気象アナリスト育成 岐阜大，社会人向けに4月から講座 データ分析，企業リスクに対応 ～「気象データアナリスト養成プログラム」 工学部附属応用気象研究センター 吉野純 センター長 ～
2023/2/21	朝日	気象をビジネス活用 アナリスト養成講座 岐阜大 4月オンライン開講 ～「気象データアナリスト養成プログラム」 工学部附属応用気象研究センター 吉野純 センター長 ～
2023/2/24	中日	気象データ分析の人材養成 岐阜大，社会人向けに今春開講 企業課題解決や新ビジネス創出へ ～「気象データアナリスト養成プログラム」 工学部附属応用気象研究センター 吉野純 センター長 ～





# 研究



- ・ 岐阜大学工学部 木下幸治 准教授 及び 木村友亮 助教が科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞
- ・ 岐阜大学教員の研究を動画で紹介する「GU Research」を開始
- ・ 工学部 吉野 純 教授が気象庁長官表彰を受賞
- ・ 平島一輝特任助教が「マンスフィールド-PhRMA研究者プログラム」に選出
- ・ 本学工学部リム リーフ教授が日本分析化学会女性 Analyst 賞を受賞
- ・ 文部科学省補助金事業 令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）に採択
- ・ 大学生のメンタルヘルスを可視化するシステムを開発
- ・ One Medicineトランスレーショナルリサーチセンター開所式を開催
- ・ 環境再生保全機構「環境研究総合推進費」令和5年度新規課題に採択



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立  
大学機構



岐阜大学

## 岐阜大学工学部 木下幸治 准教授 及び 木村友亮 助教が 科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞

### 【概要】

岐阜大学工学部社会基盤工学科の木下幸治 准教授と同学部電気電子・情報工学科の木村友亮 助教が、令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰の科学技術賞（技術部門）と若手科学者賞をそれぞれ受賞しました。

科学技術賞（技術部門）は、中小企業、地場産業等において、地域経済の発展に寄与する優れた技術を開発した者に贈られる賞です。今回の受賞対象となった木下准教授の技術開発テーマは、「経済的で環境に優しい鋼構造物の疲労き裂予防保全工法の開発」であり、ヤマダイフラテクノス株式会社と共同で開発しました。

若手科学者賞は、萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者個人に贈られる賞です。今回の受賞対象となった木村助教の研究テーマは、「CO2レーザー加熱技術の地球惑星科学への応用に関する研究」です。

令和4年4月27日（水）には、今回の受賞に関する吉田学長への報告会が行われ、社会問題の解決に取り組む予防安全対策や、独自の手法で特徴的な性質を示す新しい物質の創成に成功した事例など、受賞したそれぞれの研究内容について、木下幸治 准教授及び木村友亮 助教から吉田学長へと直接伝えられました。

また、木下幸治 准教授は、「ヤマダイフラテクノス様と共同で、経済的で合理的な手法の開発に成功したことが今回の受賞につながった」と報告し、木村友亮 助教は、「誰もやったことがないことをやるんだという強い意気込みと共に、熱意を持って取り組んできたことが今回の成果と表彰に結び付いた」と報告しました。吉田学長は、「今回のお二人の受賞は、世界に伍する研究であることが認められたものであり、これを誇りに思っている。また、その研究を更に発展させ、産学官と連携することで地域中核大学として今後ますます社会に貢献していくことを期待しています」と激励しました。



受賞報告の様子(木下幸治 准教授)



受賞報告の様子(木村友亮 助教)



集合写真



岐阜大学工学部 木下幸治 准教授 及び 木村友亮 助教が  
科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/5/8	岐阜	岐阜大 2 教員に大臣表彰 科学技術分野で優れた研究成果 ～ 工学部社会基盤工学科 木下幸治 准教授, 電気電子・情報工学科 木村友亮 助教 ～

### 【テレビ等放送】

放送日等	番組名	内容
2022/5/9	ZIP-FM 6:00～9:00 「MORNING BOOOOOOST」	岐阜大 2 教員に大臣表彰科学技術分野で優れた研究成果 工学部社会基盤工学科 木下幸治 准教授 電気電子・情報工学科 木村友亮 助教

## 岐阜大学教員の研究を動画で紹介する 「GU Research」を開始

### 【概要】

令和4年5月、本学教員の研究内容を動画で紹介する“GU Research”を開始しました。

「GU Research」では岐阜大学での研究・勉学の魅力を皆さんにお伝えするために、本学の教員が自身の研究内容を分かりやすく解説します。どの動画も15分～20分程度と気軽に視聴できるものとなっております。

第1弾は応用生物科学部 柳瀬笑子教授の「お茶を化学する」、応用生物科学部 小山博之教授の「酸性の土でも生育する植物品種改良の話」と社会システム経営学環 三井栄教授の「観光資源をかんがえる―乗鞍岳における社会実験を事例に一」です。

是非ご覧ください。



お茶には健康に良いとされるポリフェノール（カテキン類）が含まれていますが、紅茶やウーロン茶に加工する過程で大きく変化することが知られています。その変化について有機化学的な視点から分子レベルで明らかにすることをめざして行っている研究の一端をご紹介します。



酸性土壌耐性作物の作出に関する研究紹介。東南アジア、アフリカに広く分布する酸性土壌は、干ばつ害の原因にもなる、農業におけるもっとも深刻な環境ストレスです。これを遺伝子組換え育種などで改良することは、土壌改良肥料の節約にもつながり、農業の脱炭素化に大きく貢献すると考えられています。



岐阜県高山市と長野県松本市にまたがる乗鞍岳で昭和48年に開通した日本一の高所を走る山岳道路「乗鞍スカイライン」では、自然保全のため平成15年に車両乗入規制が実施されました。それ以降、自然環境が改善された反面、観光客が減少し続ける中、増加傾向にある自転車来訪者に注目し、観光振興を目的に実施している社会実験「乗鞍だけガチャ」を紹介します。

## 工学部 吉野 純 教授が気象庁長官表彰を受賞

### 【概要】

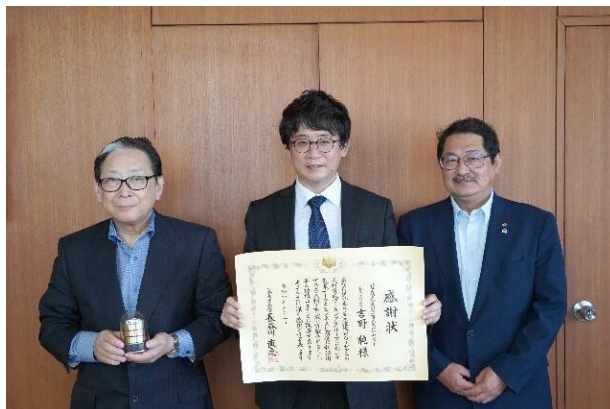
令和4年6月1日（水）に行われました第147回気象記念日式典（主催：気象庁）において、本学工学部 吉野 純 教授が気象庁長官表彰（一般表彰）を受賞しました。

このたびの受賞では、吉野教授が平成29年発足時より携わる、気象データを活用した新ビジネス創出を目的とする組織「気象ビジネス推進コンソーシアム」において、気象データをビジネスに利活用できる人材の育成に貢献したことが高く評価されました。

6月30日（木）には、吉野教授が学長室を訪問し、受賞の報告を行いました。吉野教授は「教育は大学が得意とするところであり、専門的な知見を活かして地域で活躍する気象データアナリストを育成していきたい」と話しました。吉田学長からは、「気象データは脱炭素やSDGsなど様々な取り組みに応用することが期待されており、気象に関する人材育成のパイオニアとしてリードして欲しい」と激励しました。



受賞報告の様子



記念写真

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/7/1	中日	気象庁長官表彰 受賞 気象データ活用の人材育成に貢献 ～ 応用気象研究センター 吉野純 センター長 ～
2022/7/5	岐阜	吉野教授 長官表彰 「気象データアナリスト」養成に貢献 ～ 応用気象研究センター長 吉野純 教授 ～
2022/7/19	読売	気象データ人材育成 尽力 商業活用へ 岐阜大・吉野教授 表彰 ～ 応用気象研究センター 吉野純 センター長 ～



# 平島一輝特任助教が「マンスフィールドーPhRMA研究者プログラム」に選出

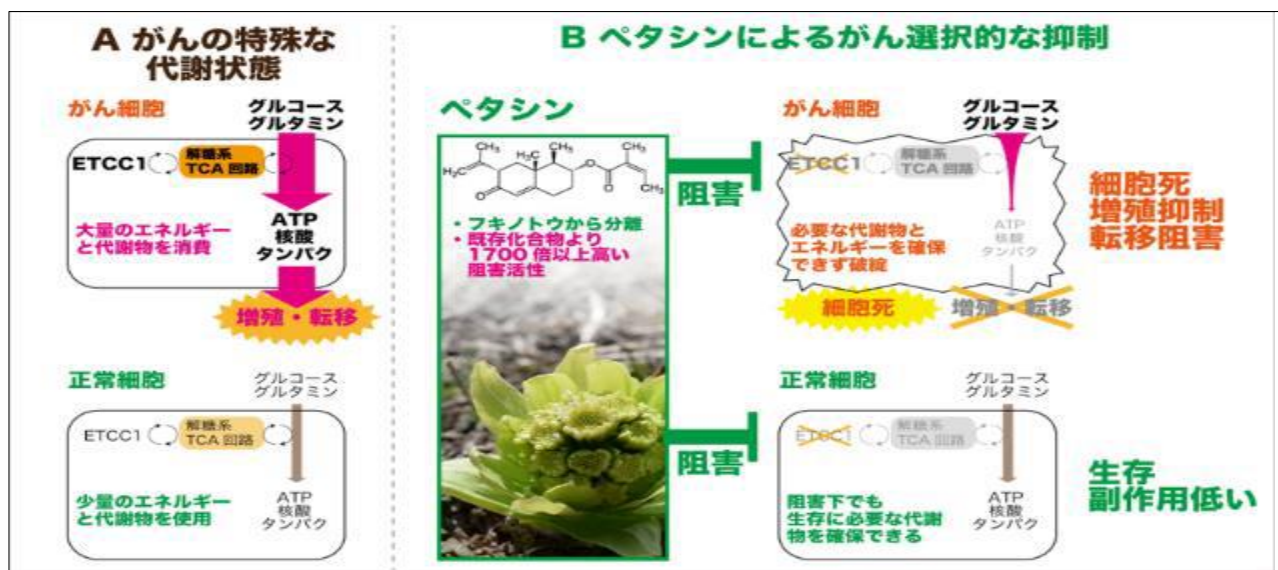
## 【概要】

本学高等研究院・若手育成プログラム G-Y L C (Young Leaders Cultivation)の平島一輝特任助教が、米国マンスフィールド財団が主催する2022年度の第8期「マンスフィールドーPhRMAプログラム」に、全国の医師、研究者8名のスカラーのうち1人として選出されました。本学からの参加者は初めてとなります。

本プログラムは2013年初頭に発足し、米国研究製薬工業協会 (PhRMA) の支援を受けて国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) の協賛のもと実施しています。医薬に携わる日本の若手研究者を米国に派遣し、米国の創薬研究・開発、政策・規制について研修します。創薬における基礎研究から臨床開発、製品化に至る過程においてどのように各機関が連携しているか理解を深め、研修で得たネットワーク・知見・経験は、所属機関内やサイエンスコミュニティ内の共同研究の推進へ活用し、日本の研究開発政策改善・シーズ創出に貢献する人材として活動することが期待されます。

英語でのエッセイ、面接を経て選出された8名は9月に2週間にわたってワシントンDC、フィラデルフィアおよびボストンにおいて米国連邦政府医療政策関連部署および関連機関、シンクタンク、民間製薬会社、大学を訪問し、米国におけるトランスレーショナル・リサーチ促進のための医療エコシステムについて理解を深め、今後の「日本におけるトランスレーショナル・リサーチの促進」「新薬や新治療法開発支援」という共通の目的意識を有する関係者間で、長期的かつプロフェッショナルなネットワークを構築することとなります。

現在、平島特任助教は日本原産植物であるフキノトウに含まれるペタシンから副作用の少ない抗がん・転移阻害剤の開発研究を行っています。



## 本学工学部リム リーフ教授が 日本分析化学会女性 Analyst 賞を受賞

### 【概要】

本学 工学部リム リーフ教授が日本分析化学会女性 Analyst 賞を受賞しました。

女性 Analyst 賞は分析化学に関する優秀な業績をあげた女性研究者、女性技術開発者あるいは女性企業経営者に贈られる賞です。このたびの受賞では、キャピラリー液体クロマトグラフィーの高性能化に関する研究が評価されました。

令和4年9月22日（木）には、リム教授が学長室を訪問し、受賞の報告を行いました。リム教授は「来日22年間、数えきれないほどたくさんの方々との出会い、多くのことを教わった。この栄誉ある賞を受賞できたのは、もちろん、私個人の力ではなく、恩師や先生方のご指導、支えてくれた同僚や学生の皆様のおかげだと思う。今後は、自分なりに努力して社会に貢献できるよう精進していきたい」と話しました。

吉田学長は、「この受賞で弾みをつけて研究を進めていってほしい」と激励しました。



受賞報告の様子



記念撮影

# 文部科学省補助金事業 令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）に採択

## 【概要】

本学は、文部科学省補助金事業「令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）」の支援メニュー①"地域"や"特定分野"の中核として強み・特色ある教育研究活動に取り組む国立大学として申請し、採択されました。

国立大学経営改革促進事業は、"学内における資源再配分"、"全学的な組織改革"、様々なステークホルダーとの連携・協働を通じた"外部からの資金獲得増"を柱とした学長のリーダーシップに基づく優れた経営改革構想と、ミッションを踏まえた強み・特色ある教育研究活動を通じた社会的インパクトの創出を先導する取組に対して集中的・重点的支援を行うものです。

今回採択された下記事業構想では、生命科学分野に大学のリソースを集中投下し、医薬薬一体型創薬研究体制を整備することで研究力を強化するとともに、創薬リサーチマネジメント人材を育成して、地域ライフサイエンス拠点の形成に貢献することを目指します。さらに、若手研究者にとって魅力ある研究の場を整備することによって外部資金獲得増の好循環を作り出し、大学経営基盤の強靱化を目指します。

## 【採択事業概要】

- 【事業名】 研究体制改革による大学経営基盤好循環の形成  
～ 生命科学分野へのリソース集中を端緒とする研究力強化 ～
- 【事業予定期間】 令和4年度～令和7年度





# 大学生のメンタルヘルスを可視化するシステムを開発 - 学生にも即時に結果をフィードバック -

## 【概要】

岐阜大学保健管理センターの堀田亮准教授は、国際標準の心理指標であるCCAPS日本語版を用いて、大学生のメンタルヘルスを可視化するWeb回答システム「CCAPS-iQAS」を開発しました。

新型コロナウイルス感染症の拡大は未だ終息に至らず、大学生のメンタルヘルスへの影響は大きな社会問題となっています。本システムは、回答した学生に対して自動かつ即時に結果がフィードバックされ、相談窓口の連絡先や、結果に応じた相談を促すメッセージも表示される機能を搭載しています（図1）。

このような機能は他に類を見ないので、その研究成果と意義が高く評価され、日本学生相談学会発行の学生相談研究に掲載されました。本システムは岐阜大学をはじめ、複数の大学ですでに実装されています。

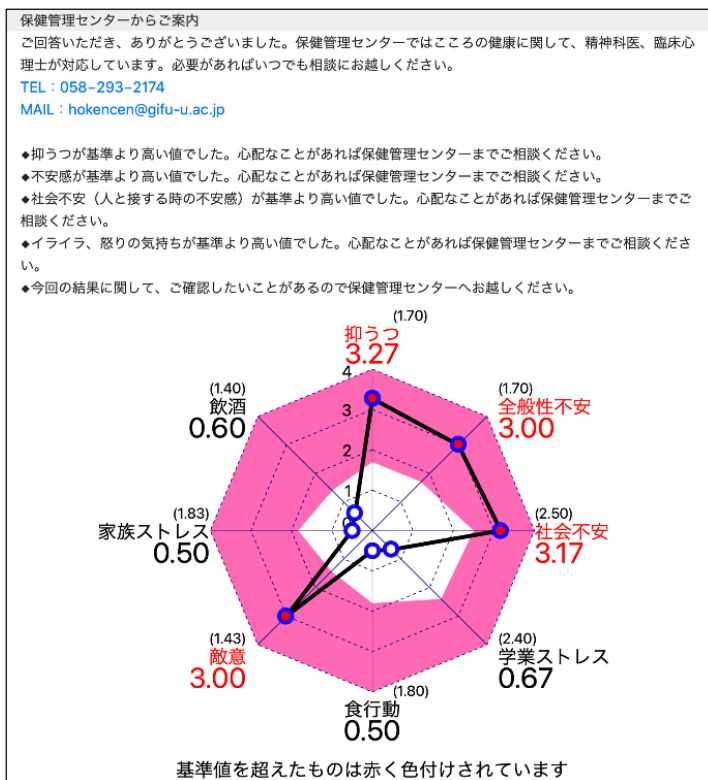


図1 「CCAPS-iQAS」の回答結果画面

## 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/1/12	日刊工業	学生のメンタルヘルス見える化 岐阜大がシステム～保健管理センター 堀田亮准教授～
2023/1/26	産経	学生の心の健康 可視化 コロナ禍 悩みをサポートシステム開発 ビッグデータ構築も～保健管理センター 堀田亮准教授～



# One Medicineトランスレーショナルリサーチセンター 開所式を開催

## 【概要】

令和5年1月17日（火）に「One Medicineトランスレーショナルリサーチセンター開所式」を開催しました。本センターは「ヒトと動物の疾病は共通」、すなわち「One Medicine」という新たな視点から創薬シーズの開発・育成を行う研究拠点として開所されました。

センターは、本学の現状組織の一部を再編し、名古屋大学や岐阜薬科大学とも連携し、医学、獣医学、薬学、工学等の研究者が、分野横断的かつ施設横断的に有機的につながり、ヒトと伴侶動物の治療薬や予防薬、診断薬のシーズの開発・育成を強力に進めます。

開所式は、松尾東海国立大学機構長をはじめ、大学関係者、研究者、学生、企業関係者など、約238名（会場125名、オンライン113名）が出席いたしました。来賓の黒沼一郎文部科学省研究振興局大学研究基盤整備課長ほか堀裕行岐阜県健康福祉部長、本学獣医学科卒業生の竹中登一アステラス製薬株式会社 元代表取締役社長CEO及び原英彰岐阜薬科大学長の挨拶から始まり、矢部大介センター長による概要説明、わが国の医薬品・医療機器開発戦略の司令塔機能を担う田中一成内閣府健康・医療戦略推進本部事務局次長、ヒトとネコの腎臓病治療薬の創薬・実用化を目指す宮崎徹一般社団法人 AIM 医学研究所 代表理事・所長による基調講演および森崇応用生物科学部教授による講演が行われました。

今後は、「One Medicine」の視座のもと国際的にわが国が後れをとる医薬品開発の成功率を高めるだけでなく、「Sharing Medicine（人獣共通医療学）」という新たな学術領域の開拓を目指してまいります。



センターの概要を説明する矢部大介センター長

## 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/1/18	中日	ヒト、動物の創薬加速へ 岐阜大に医・獣・薬・工学一体拠点 ～ OneMedicineトランスレーショナルリサーチセンター センター長・医学研究科 矢部大介教授, 吉田和弘 学長 ～
2023/1/18	岐阜	人獣共通「創薬の種」 先端医療研究を加速 岐阜大が開発・育成センター開設 ～ OneMedicineトランスレーショナルリサーチセンター センター長・医学研究科 矢部大介 教授, 吉田和弘 学長 ～

# 環境再生保全機構「環境研究総合推進費」 令和5年度新規課題に採択

## 【概要】

岐阜大学、岐阜県水産研究所、岐阜県森林研究所及び国立環境研究所の共同研究チームによる申請課題『長良川流域における森・里・川の気候変動適応が中山間地域の生業の持続性とウェルビーイングに与える影響の研究』が、令和5年3月17日に令和5年度環境研究総合推進費に採択されました。

本課題は、世界農業遺産にも認定されている長良川中上流域を主な対象とし、①森林管理・中山間地農業が長良川システムと炭素循環に与える影響、②気候変動適応策としての河川環境管理・水産資源管理・持続可能な観光を支える科学的知見創出、③生態系の恵みに関わる生業の持続可能性とウェルビーイングに適応シナリオが与える影響の3つのサブテーマからなる研究プロジェクトであり、岐阜大学が岐阜県と共同設置・運営している「岐阜県気候変動適応センター」における共同研究事業としても位置付けられるものです。

なお、本研究プロジェクトの中心となる岐阜大学地域環境変動適応研究センターは、令和2年度から4年度まで環境研究総合推進費の支援を受け『水防災・農地・河川生態系・産業への複合的な気候変動影響と適応策の研究』に取り組んでおり、世界農業遺産「清流長良川の鮎」の対象地域を中心とした気候変動影響と適応策の共創を進めてきました。

新規採択された本課題は、これまでの取り組みにより創出・後押しされた森・里・川における適応策を効果的に運用するための科学的知見を、行政・研究者・地域との協働を基調として創出するものです。



実施体制: 岐阜大学・岐阜県森林研究所、岐阜県水産研究所・(国研)国立環境研究所の分担メンバーに加え、岐阜県-岐阜大学による気候変動適応センターの協働の体制を基盤とし、岐阜県里川振興課、岐阜県国際観光局、岐阜市、郡上市、さらに地域の協力者( (一社)長良川カンパニー、NPO法人ORGAN、リバースケープLLP)等の協力を得て実施する。



# 国際化



- ・ 「Glocal Lesson」 の提供を開始
- ・ 南フロリダ大学の学生が学長を表敬訪問
- ・ 「留学生と日本人学生のための能楽（能・狂言）ワークショップ」を開催
- ・ 令和4年度大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～」に採択
- ・ COP27で地方創生エネルギーシステム研究センターがセミナーを開催
- ・ 本学工学部長および応用生物科学部長がマレーシア国民大学を訪問
- ・ 吉田和弘学長が日印大学等フォーラムで大学間交流に関する講演を実施



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立  
大学機構



岐阜大学



# 「Glocal Lesson」の提供を開始

## 【概要】

岐阜大学グローバル推進機構は、今年度、動画配信等サイト「Glocal Lesson」の提供を開始しました。

この「Glocal Lesson」は、グローバル人材として活躍が期待される本学学生の国際力の涵養及び国際展開を考える地域企業・企業人等への支援を目的とし、異文化教育に関連するあらゆるコンテンツを、主にオンデマンド形式によるオンライン講義により提供するものです。この仕組みを活用することで、本学学生の自学支援はもちろん、地域企業人等のリカレント教育をより一層容易にします。

「Glocal Lesson」はメンバー登録することでご利用が可能となります。無料会員サービスまたはサブスクリプションによる有料会員サービスによるコンテンツ提供が受けられます。

本学学生・教職員はもちろん、自治体関係者の皆様、企業人の皆様をはじめ、広く社会の皆様も是非、本サービスの利用をご検討ください。



「Glocal Lesson」チラシ

## 南フロリダ大学の学生が学長を表敬訪問

### 【概要】

令和4年6月15日、外国人研究者や留学生の渡日が再開したため南フロリダ大学（米国、フロリダ州、タンパ）から岐阜大学に滞在中の、短期交換留学生3人が、吉田学長を表敬訪問しました。公衆衛生大学院生2人とメディカルスクール1人が、岐阜大学保健管理センターで保健管理データの解析研究の指導を受け、国際雑誌への論文投稿をめざしています。

南フロリダ大学と岐阜大学は、1980年代から研究者交流があり、平成28年の部局間協定を経て、令和2年に大学間協定を締結しました。今後、岐阜大学から医学部医学科2人がタンパ総合病院へ臨床研修（4週間）に行く予定です。平成31年まで活発だった交流も、コロナ禍でバーチャル交流（オンライン討論）のみになってしまいましたが、今回の3人の来日は、ポスト・コロナにおける南フロリダ大学との交流再開と言えます。

南フロリダ大学は学生数5万以上の全米最大規模を誇り、カーネギー財団から『常に高いレベルの研究活動と地域振興を行っている公立大学40校の一つで研究大学として一流のレベルにある』と評されています。今後の益々の交流発展が期待されます。



懇談の様子



集合写真

## 「留学生と日本人学生のための能楽(能・狂言)ワークショップ」を開催

### 【概要】

本学グローバル推進機構 日本語・日本文化教育センター（以下、「日文センター」という）は、令和4年7月27日（水）に「留学生と日本人学生のための能楽(能・狂言)オンラインワークショップ」を開催しました。日文センターでは、2005年度からプロの能楽師をお迎えして能楽（能・狂言）ワークショップを行っています。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一昨年度は録画で、昨年度はオンラインで実施しましたが、今年度は対面とオンラインを併用した形式で開催しました。対面・オンライン併せて約40名の参加がありました。

講師として観世流シテ方の 味方みかた 團まどか先生 および 田茂井たもい 廣道ひろみち先生（以上能の講師）、大蔵流狂言方の 茂山しげやま 忠三郎ちゅうざぶろう先生 および 小齊平こさひら 真路しんじ先生（以上狂言の講師）の計4名を、日文センター和室にお迎えしました。

仕舞「岩船」の実演を皮切りに、能楽の歴史及び能と狂言の面おもてや所作の違いについての講義、能楽の音楽（楽器と謡）、狂言の泣き・笑いの感情表現、「寝音曲ねおんぎょく」の鑑賞、能装束の着付けといった盛りだくさんの内容が、テンポよく次々と展開されました。対面参加者とオンライン参加者の双方が楽しめるようにとの講師の先生方の工夫が随所に見られ、対面の臨場感とオンラインの利便性をどう生かしていけばよいかを考える機会ともなり、コロナ後を見据えた新しい形のワークショップとなりました。困難な状況の中、日文センターの歴史ある行事にお力を注いでくださる講師の先生方に心からお礼申し上げます。

今後も、グローバル推進機構では、本物の日本文化に触れる機会を提供する活動を展開していきます。



能と狂言の面



集合写真



# 令和4年度大学教育再生戦略推進費

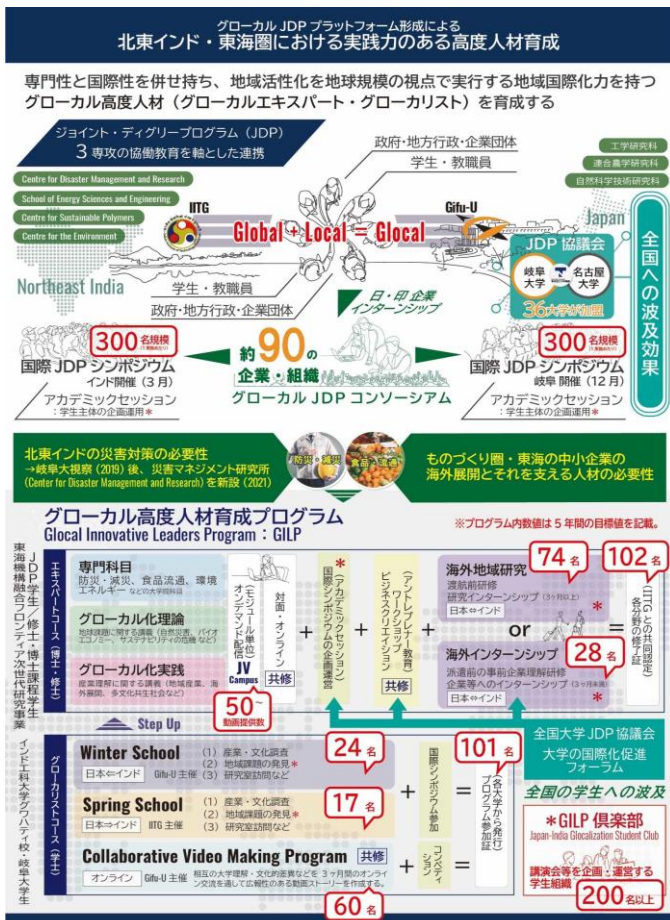
## 「大学の世界展開力強化事業～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～」に採択

### 【概要】

令和4年9月7日、文部科学省が公募する令和4年度大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～」に、本学が事業責任大学となり申請した「グローバルJDPプラットフォーム形成による北東インド・東海圏における実践力のある高度人材育成」が採択されました。

「大学の世界展開力強化事業～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～」は、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力を強化するため、日本人学生の海外留学と外国人学生の受入れを行う国際教育連携の取組を5年間継続支援するものです。

本プログラムにおいて、本学はインド工科大学グワハティ校、岐阜・東海地域及び北東インド地域の産官学と連携した各種取り組みを通じて、高度人材育成および地域・国際社会の発展に貢献していくこととしています。



### プログラムのポイント

**3専攻の国際連携専攻 (JDP) を設置・運営する**  
岐阜大学とインド工科大学グワハティ校を中心に、岐阜を中心とする東海地域や北東インド地域の産官学 (JDPコンソーシアム) が協働して国際連携教育に貢献するグローバルJDPプラットフォームを形成する。それを活用することにより「食品・サプライチェーンエキスパート」、「減災・防災エキスパート」、「サステナブルエネルギーエキスパート」等の修了証発行型教育プログラムを構築しグローバル高度人材を育成する。

## COP27で地方創生エネルギーシステム研究センターが セミナーを開催

### 【概要】

本学地方創生エネルギーシステム研究センターは、令和4年11月8日、国連気候変動枠組条約第27回締約国会議COP27(開催地：エジプトのシャルムエルシェイク)において、セミナー"Aiming for Environmental Friendly and Carbon Neutral System of Desalination and Water Treatment (環境に配慮したカーボンニュートラルな造水及び水処理システムを目指して)"を開催しました。

上宮成之センター長の挨拶と同センターの研究活動紹介に続き、石川薫元在エジプト日本大使がナイル川の汚染問題と両国連携による浄化活動の成功事例を紹介し、同センタープロジェクトマネージャーのDr. Maria R. H. Takeuchiは官学連携プロジェクトの問題点と目標達成のためのリーダーシップについて講演しました。続いてエジプトSouth Valley大学のDr. Khaled Ali Mohammed Ali はエジプトの現状と水問題の原因について、板谷義紀前センター長はカーボンニュートラルな海水淡水化システムについて、京都大学エネルギー理工学研究所の大垣英明教授は環境に配慮したファインバブルを用いた水処理について講演しました。

海外の参加者からはセミナー資料配布の依頼が、日本の参加者からは日本国内で日本語による開催の依頼があり、アカデミアだけでなく、世界中の様々な分野の人々に発信したいと考えています。



エジプト シャルムエルシェイクCOP27会場



上宮成之 岐阜大学地方創生エネルギーシステム研究センター(G-RESRC)センター長



Dr. Maria R. H. Takeuchi G-RESRCプロジェクトマネージャーの講演



板谷義紀 G-RESRC前センター長の講演



## 本学工学部長および応用生物学部長が マレーシア国民大学を訪問

### 【概要】

2023年1月4日（水）、5日（木）に、大学間学術交流協定に基づく研究・国際交流活動の一環として、本学の村井利昭 工学部長および光永徹 応用生物学部長がマレーシア国民大学を訪問しました。

本学とマレーシア国民大学（UKM）は、本学工学研究科において国際連携専攻（Joint Degree Program, JDP）を1専攻設置しています。今回の両学部長による訪問は、工学研究科での交流の更なる深化と、食品科学・生物化学系への交流の拡大およびマレーシアでのESL※プログラムの可能性などを探る目的で行われました。

1月4日（水）は、UKMのFaculty of Science & TechnologyおよびFaculty of Engineering & Built Environmentにおいて、各学部の紹介や今後の交流の可能性について会談し、翌5日（木）は、Mohammad Kassim UKM副学長（学術・国際担当）およびTanot Unjah 副国際交流オフィス長（UKM Global）と、現在の交流状況の確認および本学学生が短期で参加できるESLプログラムや、世界展開力強化事業でのJDPプラットフォームにおける連携強化について情報交換を行いました。

今後も、本学の国際化の更なる発展のため、協定先大学の実質的な交流学部の拡大支援や、本学学生が参加できる短期語学・文化研修プログラムの新規開拓を進めていきます。



Faculty of Science & Technologyの学部長と  
光永 応用生物学部長



Faculty of Engineering & Built Environmentの  
学部長と村井 工学部長



Mohammad Kassim UKM副学長(学術・国際担当)および  
Tanot Unjah副国際交流オフィス長との会談後の集合写真

## 吉田和弘学長が日印大学等フォーラムで 大学間交流に関する講演を実施

### 【概要】

2023年1月23日、東京で開催された日印大学等フォーラムにて、吉田和弘岐阜大学学長が日印間の大学間交流に関する講演を行いました。

本フォーラムは科学技術振興財団（JST）が主催したもので、第一回にあたる今回は「日印間の大学・研究機関間交流の強化と今後の課題解決：若手イノベーション人材の育成と交流」をテーマに、インドの10大学、日本の22大学及び関係機関の学長や代表が対面形式でフォーラムを開催し、今後の両国の連携強化に向けた議論を行いました。

第一部では、日印大学学長による各校の日印交流の実績や成果、今後の課題に関する講演が行われました。第二部は円卓会議が行われ、若手人材の育成に向けた課題や大学間連携について意見が交わされました。第一部と二部において、吉田学長は、日印間でジョイントディグリープログラム(JDP)を開設している唯一の大学連携である本学とインド工科大学グワハティ校（IITG）との交流を中心に、JDPの実際ならびに両大学で共創する地域創生高度人材育成（現在進行中の「大学の世界展開力強化事業：インド太平洋地域等との大学間交流形成支援」）について、話題提供を行いました。

また、第一部に先立ち、吉田学長は本フォーラムに出席のIITG学長P. K. アイヤー教授と面会し、両大学間の教育研究連携について幅広く意見を交わしました。

本学は今後もIITGとの関係を強化していくと共に、今後の両国の連携強化の一端を担えるよう努力していきます。



吉田和弘学長の第一部での講演の様子



吉田和弘学長の第二部での発言の様子



日印大学学長の集合写真



# 社会貢献



- ・ 岐阜県野生動物管理推進センターを設置
- ・ 大野町と連携に関する包括協定を締結
- ・ 文部科学省「情報ひろば」企画展示で岐阜県と本学の協働について紹介する展示を実施
- ・ 坂祝町と連携に関する包括協定を締結
- ・ 関ヶ原町と連携に関する協定を締結
- ・ 産学金官連携人材育成・定着プロジェクト「成果発表会」を開催

## 岐阜県野生動物管理推進センターを設置

### 【概要】

本学に岐阜県野生動物管理推進センターが設置されました。

岐阜県野生動物管理推進センターは、岐阜県及び本学が共同設置する野生動物の管理を推進するためのシンクタンク組織として、生物多様性保全の観点から野生動物による被害への対策強化、地域課題の解決と豊かな地域社会の創出に貢献することを目的に事業を実施していきます。

令和4年4月1日（金）に行われた開所式では、光永応用生物科学部長と渡辺岐阜県環境生活部長から挨拶があり、センター長である鈴木応用生物科学部教授から「野生動物の管理に関わる人材育成及び教育、普及活動を行っていききたい」と事業概要が説明されました。その後、研究ラボ3階において、県・大学双方で看板の設置を行いました。



看板を掲げる光永応用生物科学部長（右）と渡辺岐阜県環境生活部長

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/4/2	岐阜	野生動物行動 AI解析 県と岐阜大のシンクタンク開所 獣害対策に活用 ～ 応用生物科学部 光永徹 学部長 ～
2022/4/2	読売	岐阜大が野生動物調査 県と共同 「管理推進センター」設置 ～ 県野生動物管理推進センター長 鈴木正嗣 応用生物科学部教授 ～
2022/4/3	毎日	獣害対策強化へ 岐阜大に新拠点 県と連携、生息分析 ～ 県野生動物管理推進センター長 鈴木正嗣 応用生物科学部教授 ～
2022/4/5	中日	獣害対策の組織 岐阜大内に設置 県と共同 ～ 県野生動物管理推進センター長 鈴木正嗣 応用生物科学部教授 ～
2022/4/9	中部経済	岐阜大に獣害対策の新拠点 生息情報分析、自治体に助言 ～ 県野生動物管理推進センター・センター長 応用生物科学部 鈴木正嗣 教授 ～

## 大野町と連携に関する包括協定を締結

### 【概要】

本学と大野町は、令和4年6月29日（水）に連携に関する包括協定を締結しました。

本学と大野町は、これまでも大野町の各種委員会委員、計画策定時のアドバイザーを教員が務めるなど連携を進めてきましたが、本協定では、本学と大野町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは30件目です。

協定締結式では、宇佐美晃三大野町長から、「大学が持つ高い専門的知識や若い学生の柔軟な発想を町の各種施策に反映させたい。」、吉田和弘岐阜大学長から、「大学の研究成果や『知』を活かして、『地域中核大学』として、まちづくりの支援をし、地域のニーズに合わせて連携を深めていきたい。」と挨拶がありました。

今後、岐阜大学と大野町は、大野町職員2名を大学の地域コーディネーターとして委嘱し、小・中学校の適正規模・適正配置の検討や東海環状自動車道大野・神戸インターチェンジ周辺のまちづくりに関する分野等において協議を進め、地域創生に向けて共に取り組んでいく予定です。



協定書を手にする  
吉田学長(左)と宇佐美大野町長



懇談の様子

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/6/30	中日	地域課題解決や人材育成で協定 大野町と岐阜大 ～ 吉田和弘 学長 ～



## 文部科学省「情報ひろば」企画展示で 岐阜県と本学の協働について紹介する展示を実施

### 【概要】

令和4年7月21日（木）～令和4年8月31日（水）まで文部科学省「情報ひろば」企画展示室で岐阜県と本学の協働について紹介されています。

本学では、全ての学部・研究科が1つのキャンパスにある特徴を教育・研究の両面に活かし、特に、高度な専門職業人の養成に主眼を置いた教育、教育の基盤としての質の高い研究、地域に根差した国際化に取り組んでいます。今回は、その中でも「岐阜県との協働」について、岐阜大学を代表する「地域協学センター」と「航空宇宙生産技術開発センター」の好取組事例を紹介されています。

### <主な展示物>

#### ○実物展示

- ・自律滑空機
- ・ミニ滑空機：2機

#### ○映像

- ・航空宇宙生産技術開発センターPR動画

#### ○パネル

- ・企画展示説明：B1ポスター1枚
- ・取組概要・成果紹介（ぎふ地域学校協働活動センター）：A0パネル1枚  
B1ポスター2枚
- ・センター概要紹介（航空宇宙生産技術開発センター）：A0パネル1枚
- ・人材育成事業紹介（航空宇宙生産技術開発センター）：A0パネル2枚
- ・研究開発事業紹介（航空宇宙生産技術開発センター）：A0パネル2枚



展示の様子



## 坂祝町と連携に関する包括協定を締結

### 【概要】

本学と坂祝町は、令和4年10月5日（水）に連携に関する包括協定を締結しました。

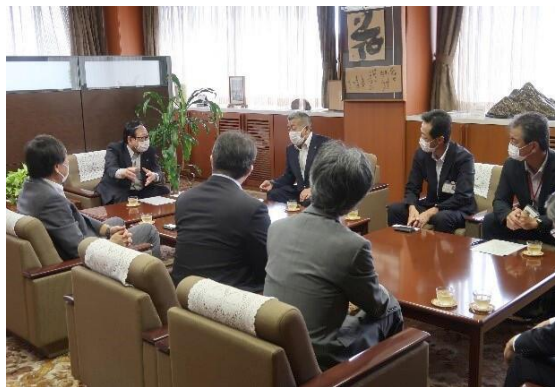
本学と坂祝町は、これまでも坂祝町の教育分野を中心とした各種委員会委員やアドバイザーを教員が務めるなど連携を進めてきましたが、本協定では、本学と坂祝町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは31件目です。

協定締結式では、柴山佳也坂祝町長から、「コミュニティー・スクールやいじめ問題対策、子育て支援を含む教育分野での連携を中心に包括的な連携をしていきたい」、吉田和弘学長から、「坂祝町と包括連携協定を締結できるのは大変うれしい。『地域中核大学』として、地域の自治体と良好な連携をとって地域を発展させていきたい」と挨拶がありました。

今後、岐阜大学と坂祝町は、地域創生に向けて共に取り組んで参ります。



協定書を手にする  
吉田学長（右）と柴山坂祝町長



懇談の様子

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/10/6	中日	地域活性化目指し10項目で連携協定 岐阜大と坂祝町 ～ 吉田和弘 学長 ～
2022/10/6	岐阜	岐阜大と坂祝町が協定 教育分野中心に包括連携 ～ 吉田和弘 学長 ～

## 関ヶ原町と連携に関する協定を締結

### 【概要】

本学と関ヶ原町は、令和4年10月31日（月）に連携に関する協定を締結しました。

本学と関ヶ原町は、これまでも医療分野を中心とした連携を進めてきました。本協定では、本学と関ヶ原町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは32件目です。

協定締結式では、西脇康世関ヶ原町長から、「岐阜大学が持つ広範囲の知見や研究成果をいただいて、医療や人口減少対策をはじめとした町の課題に対応していきたい」、吉田和弘岐阜大学長から、「岐阜大学は日本一の地域中核大学を目指しており、自治体との連携を強固にするのは使命である。包括連携協定締結を機に、わが国が誇る遺産である関ヶ原町の古戦場を若いアイデアを取り入れて社会へ発信していきたい。また、超高齢社会に対応した医療を充実させていきたい」と挨拶がありました。

会場には二体の甲冑が置かれ、西脇町長と吉田学長が陣羽織姿となり、古戦場のまち、関ヶ原町らしい締結式となりました。

今後、岐阜大学と関ヶ原町は、地域医療と地域振興策に関することを中心に連携を深め、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。



協定書にサインする吉田学長



協定書を手にする陣羽織姿の吉田学長（右）と西脇関ヶ原町長

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/11/1	中日	地域発展や人材育成目的に包括連携協定 関ヶ原町と岐阜大 ～ 吉田和弘 学長 ～
2022/11/1	岐阜	岐阜大、関ヶ原町と協定 防災や教育など9項目 地域課題の解決で連携 ～ 吉田和弘 学長 ～

## 産学金官連携人材育成・定着プロジェクト 「成果発表会」を開催

### 【概要】

本学は、令和5年2月2日（木）、「産学金官連携人材育成・定着プロジェクト」の一環として、工学部の学生及び地域協学センター教員等による成果発表会を、本学講堂において対面とオンラインで開催しました。対面での開催は3年ぶりに実施することができました。

「産学金官連携人材育成・定着プロジェクト」とは、岐阜県、産業界、大学、さらには金融機関が連携し、県内企業の高度技術者等の確保・育成及び定着を支援し、地域経済の活性化を図ることを目的とするものです。

本プロジェクトの一環として、工学部の学生は授業科目「機械工学創造演習」において、グループごとに県内企業による講義や実習に参加しました。また、本学が推進する「次世代地域リーダー育成プログラム」の科目の一つで、地域協学センターが開講する「地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る」を受講した学生は、県内企業で活躍する若手社員の方々取材し、企業紹介のレポートを作成しました。

発表会では、産学金官連携人材育成・定着プロジェクト推進協議会長である株式会社ナベヤの岡本知彦代表取締役社長から「県内には魅力ある企業、面白い企業がたくさんあるということを知りながら体験してもらおうがこのプログラム。ぜひ県内企業に就職していただきたい」と挨拶がありました。また、松尾清一東海国立大学機構長からは「学生が地域の企業に行って実際の活動を見て、学んでいることがどう役に立つのか、何を勉強したら良いのかに気づくことができ、素晴らしい取り組みだと思う。岐阜県とたくさんの地元企業から支援をいただいて成り立っている事業であり御礼申し上げます」、本学吉田和弘学長からは「実習を通じて学生はものづくりの楽しさ・難しさへの理解を深めると同時に、県内企業の技術の高さ、そこに働く人々の温かさや生きがいを認識できたのではないかと。コロナ禍で活動が制限されている中で、実習に行かせていただき感謝しています」と挨拶がありました。

続いて全部で28の学生グループ等がこれまでの取り組みで得られた成果について発表（スライドショーによるプレゼンテーション）を行い、学生からは「岐阜県内の企業活動を知るよい機会であった」などと肯定的な振り返りがありました。

本学は今後も、本プロジェクトを通して、大学、県、産業界、金融機関等が一丸となって、地域・地元産業界の課題解決に向けて行動できる人材の育成、確保、定着を推進し、地域・地元産業界の活性化に貢献していきます。



岡本知彦 会長



学生が発表をしている様子





# 大学病院



- ・救命救急センターの充実度評価において「S評価」を取得
- ・令和4年度多数傷病者受入訓練を実施
- ・5G通信を活用した4K映像伝送システムとリアルタイム字幕解説を併用した医療者教育における遠隔授業の実証実験を実施
- ・男女の消化器外科医による手術成績は同等
- ・総合患者サポートセンターを開設

## 救命救急センターの充実度評価において 「S評価」を取得

### 【概要】

令和4年4月14日付けで厚生労働省から公表されました「救命救急センターの充実度評価」において、本院の高度救命救急センターが4年連続「S」評価（※）を取得しました。

また、岐阜県下の救命救急センターにおいて「S」評価を取得したのは当院のみとなります。

年々「S」評価に対する評価基準が厳しくなっている中、「S評価」が取得できたことは、施設面はもちろんのこと、本院の高度救命救急センターが、地域の中で最後の砦として周辺の病院群と連携を持ちながら高度な医療を展開してきたことが評価されたものと考えています。

本院は今回の「S評価」の取得を機に、今後も地域の中で最後の砦として周辺の病院群との連携を強化して高度な医療を展開していきます。

（※）平成30年度分の評価から、ストラクチャーを中心とした評価体系から、プロセスも含めた評価体系へ見直しが行われ、地域の関連機関との連携の観点からの評価も追加されました。



ドクターヘリ

## 令和4年度多数傷病者受入訓練を実施

### 【概要】

令和4年5月27日(金)、バスの交通事故を想定した多数傷病者受け入れ訓練をトリアージ施設及び本院1Fで実施しました。

この訓練は、多数傷病者を受け入れる際の病院における初動体制整備・確認に重点を置き、関係機関との連携や、本院の基幹災害拠点病院としての対応能力向上を目的として毎年実施しています。

当日は、医学科4年生が医師役、患者役、家族役、報道役として参加し、医療チームの立ち上げから、問診等を行い新型コロナウイルス感染疑いの有無、重症度によって治療の優先順位を決める「トリアージ」、診療、治療や入院先決定まで一連の模擬治療活動を当院の医師や看護師ら医療スタッフと共同で行いました。

この訓練に参加した医学科4年生は「患者さんが次々と搬送されてくる中で優先順位をどのようにつけるか悩んだ。スピードと質を両立する難しさを改めて感じた」と振り返り、救急災害医学講座の鈴木医師は「こちらの想定していたものを上回る学生もあり、とても勉強しているように感じた。この経験を踏まえ、東海地方の災害に対応できる医師になってほしい」と述べました。

当院は、今後も災害時に備えた実地訓練を重ね、地域の皆さんが安全・安心に過ごせるよう努めてまいります。



訓練の様子

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/5/28	岐阜	医学生, トリアージ訓練 岐阜大病院 容体急変も想定 ～ 医学部4年 奥村駿介さん ～



## 5G通信を活用した4K映像伝送システムとリアルタイム字幕解説を併用した医療者教育における遠隔授業の実証実験を実施

### 【概要】

令和4年6月23日（木）、東海国立大学機構岐阜大学と株式会社NTTドコモは、岐阜大学医学教育開発研究センターおよび岐阜大学医学部附属病院の協力を得て、5Gを活用した医療者向け遠隔授業支援を目的とし、4K映像伝送システム「LiveU（ライヴユー）」とリアルタイム字幕生成ソフトを用いた、医学生向け手技教育の授業をリアルタイム配信する実証実験（以下、本実験）を実施しました。

本実験は、岐阜大学医学部医学科生への遠隔授業による外科的手技教育を目的としています。この教育ではまず、消化器外科指導医がヘッドセットのカメラを通じて、外科縫合手技を実演かつ中継し、実況解説音声付き4K映像を「LiveU」からドコモの5G回線を介して伝送します。そしてこの映像を受信した別の外科医による副音声解説を自動で字幕化して映像に追加、これを別教室や自宅にいる学生へ「リアルタイム遠隔授業」として配信するものです。これにより術者目線での縫合糸と繊細な手元の動きと音声・文字情報を遅延なく、同一画面で視聴させることが可能となります。対面授業では伝えられなかったリアリティ溢れる視野で手技を学ぶ、新たな授業スタイルを検証する取り組みです。

本実験により、学生は、手術手技映像を術者目線により、リアルタイムかつ文字情報付きで視聴することが可能になり、コロナ禍において失われた教育機会の補填以上の付加価値がもたらされます。岐阜大学は本実験を通過点と捉え、実証で得た課題などを分析し、さらなる医療者教育の発展を進めていきます。更には、本実験により専門性の高い高難度手術手技の伝達・教育が可能となれば他病院の医師との連携や医師不足が指摘されている過疎地における医療支援、医療格差をも軽減できる可能性を秘めています。岐阜大学では診療科の枠を超えた遠隔医療支援、ICTによる教育のさらなる展開をNTTドコモと共に進めていきます。またドコモは今後の医療現場における高精細リアルタイム映像伝送の利活用の可能性を探り、5Gを活用しさらなる低遅延かつ高精細な医用映像伝送の実現につなげていきます。

### 〔本実証実験のイメージ図〕





5G通信を活用した4K映像伝送システムとリアルタイム字幕解説を併用した医療者教育における遠隔授業の実証実験を実施

## 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/6/24	岐阜	5Gで手術「遠隔実習」 岐阜大とドコモ、新システム 手元鮮明、解説を自動で字幕化 ～ 医学部消化器外科 松橋延壽 准教授、医学部5年 小島一真さん ～
2022/6/24	中日	先生のオペ 5Gで間近に 岐阜大とドコモ 配信実験 医学生向け 学習効果アップへ ～ 医学部消化器外科 松橋延壽 准教授、医学部5年 小島一真さん ～

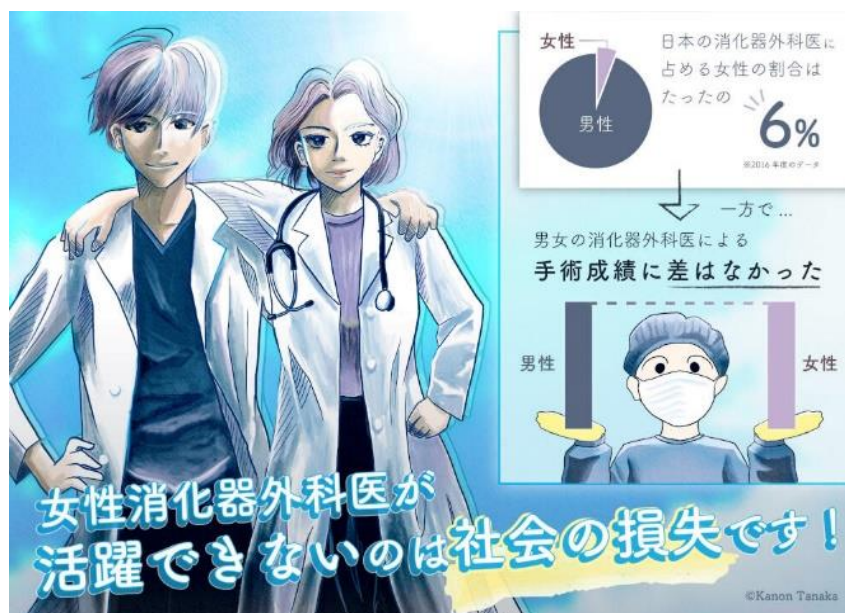
# 男女の消化器外科医による手術成績は同等 — 女性消化器外科医のさらなる活躍に向けて —

## 【概要】

岐阜大学の吉田和弘 教授(研究当時、現:岐阜大学学長)、京都大学大学院医学研究科の大越香江 客員研究員、藤田悠介 同医員、肥田侯矢 同講師、東京大学大学院医学系研究科の野村幸世 准教授、大阪医科薬科大学の河野恵美子 助教、日本消化器外科学会の北川雄光 理事長らの共同研究グループは、日本消化器外科学会による日本最大の手術データベースNational Clinical Database (NCD) を利活用した研究において、男女の消化器外科医が執刀した手術の短期成績を解析しました。日本の消化器外科医における女性の割合は6%程度と少ないですが(2016年当時)、年々増加傾向にあります。しかし、指導的立場の女性消化器外科医は未だ少ないのが現状です。そこで、男女の消化器外科医による手術成績に差があるのか、女性が外科医として十分活躍できる存在であるのかを調査することを目的として、本研究を行いました。

研究の結果、女性消化器外科医は全体として男性よりも医籍登録後の年数が短く、腹腔鏡手術執刀の割合が少ないものの、よりリスクの高い患者を手術していたことが分かりました。また、病院の規模や患者の背景を調整して比較した合併症や死亡率の調整リスクには、男女間で有意差はありませんでした。つまり、女性消化器外科医の手術短期成績は男性消化器外科医と同等であると言えます。今後、女性医師がさらに消化器外科領域で研鑽を積んで活躍するために、男女外科医に均等な教育の機会を提供するとともに、より多くの女性外科医を育成するための環境づくりが期待されます。

本研究成果は2022年9月28日(現地時刻)にイギリスの国際学術誌「The BMJ」にオンライン掲載されました。



## 総合患者サポートセンターを開設

### 【概要】

令和5年1月1日より患者さんが安心して生活を送ることができる医療を目指し、入院前から入院中、退院後を見据えるために、総合患者サポートセンター（Center for Patient Flow Management：CPFM）を設置しました。

当センターは、医療連携部門、入退院支援部門、相談支援部門の3つの組織から構成されており、患者さん一人ひとりの状況に応じた一連の医療を提供するために、効率的・総合的なサポートを実現し、院内のチーム医療の充実はもとより、地域との医療介護連携を円滑に図ることを目的としています。

総合患者サポートセンター業務概要マトリックス



### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/1/31	朝日	ワンストップ対応 患者窓口 岐阜大病院にサポートセンター ～ 医学部附属病院総合患者サポートセンター 清水雅仁 センター長 ～





# 学生活動等



- ・本学学生チームが「第14回学生金型グランプリ プレス用金型部門」で金賞及び（一財）産業デザイン賞を受賞
- ・本学学生チームが「Tongaliビジネスプランコンテスト2022」で最優秀賞等を受賞
- ・教育学研究科修了生の赤松選手が世界陸上 男子走高跳の予選に出場
- ・環境サークルG-ametが「ともいきSDGsシンポジウム チャレンジアワード東学」において東海学園賞を受賞
- ・「ISO14001内部環境監査員養成研修」修了証書授与式を実施
- ・本学学生が未来博士3分間コンペション2022においてSpringer Nature Award を受賞
- ・「考えようSDGs！エコ活動啓発ポスターコンクール」を開催
- ・本学学生が「キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」で教員審査委員賞を、「ビジネス創造コンテスト」で最優秀賞等を受賞
- ・「本学教育学研究科を修了した赤松諒一さんが第10回アジア室内陸上競技選手権大会で優勝



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立  
大学機構



岐阜大学

## 本学学生チームが「第14回学生金型グランプリ プレス用金型部門」で金賞及び（一財）産業デザイン賞を受賞

### 【概要】

「第14回学生金型グランプリ（（一般社団法人）日本金型工業会主催）」において「プレス型部門（課題 角絞り品）」に出場した本学学生チームが金賞及び（一財）産業デザイン賞を受賞しました。

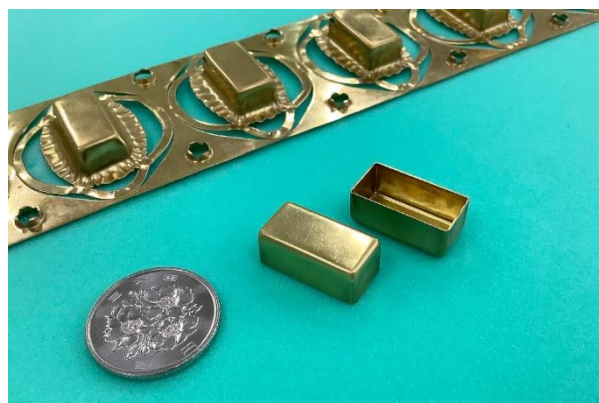
本グランプリは、金型を学ぶ学生達が製作した金型、成形サンプルを展示し、学生自身が金型製作の設計から金型加工、成形に至る実施内容を説明するもので、今回で14回目の開催となります。インターモールド2022（インテックス大阪4/20～23）内に金型展示ブースも設けるため、民間企業の社員が自由にブースに立ち寄り、学生達と交流できることから、ものづくりの現場で課題となっていることを議論する貴重な場にもなっています。

令和4年5月19日（木）には、今回の成果について、学生チーム及び指導教員による吉田学長への報告会が行われました。

グランプリに出場した学生は、「材料を割れないように加工できる金型にすることや、加工部分を材料から正確に分離させる構造を作成することが大変だった」と報告し、吉田学長は、「ものづくりは岐阜大学の得意分野であり、そこで金賞を取られたことを誇りに思う。取り組まれた学生、指導された先生、伝統が脈々と技術を受け継がれたことに敬服する」と称えました。



受賞報告の様子



作成した金型で加工した角絞り品



集合写真

本学学生チームが「第14回学生金型グランプリ プレス用金型部門」で  
金賞及び（一財）産業デザイン賞を受賞

## 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/5/20	岐阜	「全国学生金型グランプリ」プレス部門 最高賞と産業デザイン賞 岐阜大生ダブル受賞 作業効率の良さ評価 ～ 吉田和弘学長, 大学院1年 河瀬彩未さん～
2022/5/24	中日	岐大チーム 金型金賞 学生グランプリ 環境に優しく精度◎ ～ 吉田和弘 学長, 大学院1年 河瀬彩未さん, 紀藤優介さん, 小栗理史さん～
2022/5/26	朝日	岐大 学生金型グランプリV 工学部のチーム15人が今春 ～ 吉田和弘 学長, 大学院1年 河瀬彩未さん～
2022/5/20	岐阜	「全国学生金型グランプリ」プレス部門 最高賞と産業デザイン賞 岐阜大生ダブル受賞 作業効率の良さ評価 ～ 吉田和弘学長, 大学院年 河瀬彩未さん～



## 本学学生チームが「Tongaliビジネスプランコンテスト2022」で 最優秀賞等を受賞しました

### 【概要】

令和4年6月11日（土）に行われましたTongaliビジネスプランコンテスト2022において本学学生4チームが最優秀賞等を受賞しました。

Tongaliビジネスプランコンテストは、東海地域（愛知県・岐阜県・三重県・静岡県）のすべての大学の大学生・大学院生を対象とし、大学発ベンチャーの創出と起業家育成を目的としたコンテストです。

6月27日（月）には、受賞チームの代表者が学長室を訪問し、受賞の報告を行いました。受賞者からはコンテストで披露したビジネスプランの報告があり、「今年中に会社を立ち上げたい」などの目標を学長に伝えました。吉田学長からは、「みなさんの前向きな姿勢を学内に広げてもらい、大学を活性化して行ってほしい。それが教員にも波及し日本一の地域中核大学になるよう中心になって引っ張ってってくれることを期待している。」と激励しました。

受賞した学生チームのメンバーは以下のとおりです。

#### ◆ Tongali賞（最優秀賞）、サポーター賞（三菱商事賞）、オーディエンス賞

チーム名：artkake

テーマ：捨てられるアートに新しい価値を  
地域科学部4年 夏目 一輝

#### ◆ Tongali賞（4位）

チーム名：ぱーまねんと すぽんじ

テーマ：すぽんじへあ～

美容業界の常識にあなを空ける  
自然科学技術研究科1年 佐藤 綾音

#### ◆ サポーター賞（OKB賞）、海外チャレンジ賞

チーム名：岐阜ミルク

テーマ：ミルク化粧品・入浴剤

～低温殺菌牛乳の可能性を開拓～  
自然科学技術研究科1年 古川 紗帆

#### ◆ サポーター賞（トランコム賞）

チーム名：Agri portal

テーマ：「オンラインセミナー×商談会」  
でスマート農業の導入促進  
応用生物科学部2年 杉本 稜太



受賞報告の様子



集合写真



本学学生チームが「Tongaliビジネスプランコンテスト2022」で  
最優秀賞等を受賞しました

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/6/29	岐阜	岐阜大チーム最優秀 東海地区大学「ビジネスプランコンテスト」 "持ち歩く絵画"事業, 考案 ~吉田和弘 学長, 4年 夏目一輝さん, 大学院1年 佐藤綾音さん, 大学院2年 古川紗帆さん, 2年 杉本稜太さん~

## 教育学研究科修了生の赤松選手が 世界陸上 男子走高跳の予選に出場

### 【概要】

本学大学院教育学研究科修了生の赤松選手が日本時間令和4年7月16日（土）午前2時に世界陸上 男子走高跳の予選に出場し、グループBで競技を行いました。

試合開始の30分前には、メインスタジアムへと入り競技前の準備を入念に行いました。試合では、2m17cm、2m21cmの跳躍を1回目で成功させ、その後の跳躍で2m25cmに臨みましたが、惜しくも記録を残すことはできませんでした。その結果、グループBの11位という結果となり、予選突破とはなりませんでした。

赤松選手からは、「皆さまの力強いご声援により、怪我なく無事に予選を終えることができました。ご声援いただいた皆さま、ありがとうございました。今回の世界陸上では、世界の選手たちと一緒に試合ができたため、とてもいい経験ができました。連続で開催される来年の世界陸上では、必ず決勝ラウンドで戦いたいと思います。」とコメントがありました。

試合を終えた後には、赤松選手に対して、現地の子どもたちやオレゴン大学に留学している日本の学生たちから、サインや写真撮影を求められました。

赤松選手に帯同していた林専任コーチからは、「岐阜大学の理念と目標（「学び、究め、貢献する」）にあるように、来年の世界陸上を見据える赤松選手と共に、決勝ラウンドを通じて世界の走高跳について学び、研究し、コーチとして指導していきたいと思います。」と力強く今後の抱負を語ってくれました。また、予選後には、オレゴン大学の学生や留学している日本の学生に対して、岐阜県のことや本学のことについて紹介し、ディスカッションをする場面がありました。なお、男子走高跳の決勝ラウンドは、日本時間の19日に行われました。

赤松選手へのご声援、誠にありがとうございました。次の大会を見据える赤松選手への引き続きのご声援をどうかよろしく願いいたします。



予選での跳躍の様子



試合後にサインをする赤松選手

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/7/2	岐阜	赤松, 初の代表選出 男子走り高跳び 世界選手権 ～ 教育学研究科卒 赤松諒一さん ～
2022/7/4	岐阜	世界選手権 男子走り高跳び代表 赤松（岐阜大院 出）「世界に手届いた」 ～ 教育学研究科卒 赤松 諒一さん ～
2022/7/6	中日	岐阜大の赤松さん抱負 高飛び世界大会「メダル目指 す」 ～ 教育学研究科卒 赤松諒一さん, 吉田和弘 学長 ～
2022/7/6	岐阜	岐阜大の赤松さん抱負 高飛び世界大会「メダル目指 す」 ～ 教育学研究科卒 赤松諒一さん, 吉田和弘 学長 ～
2022/7/8	岐阜	走り高飛び, 世界陸上出場 赤松選手入賞狙う 県庁 訪問 ～ 教育学研究科卒 赤松諒一さん ～
2022/7/11	中日	赤松選手「まず予選突破」 世界陸上男子走り高跳び へ 大垣で壮行会 ～ 教育学研究科卒 赤松諒一さん ～
2022/7/13	朝日	走り高跳び・赤松選手 世界陸上へ決意 岐阜市出身 ～ 教育学研究科卒 赤松諒一さん ～
2022/7/17	岐阜	赤松（岐阜大院出）予選突破ならず 男子走り高跳び ～教育学研究科卒 赤松諒一さん～
2022/7/22	中日	異色ジャンパー 二刀流の挑戦 岐阜大医学部研究生 赤松 世界陸上走り高跳び ～ 教育学研究科卒・医学 部研究生 赤松諒一さん ～

## 環境サークルG-ametが「ともいきSDGsシンポジウム チャレンジアワード東学」において東海学園賞を受賞

### 【概要】

令和4年9月23日（金）に行われました「ともいきSDGsシンポジウム チャレンジアワード東学」において、本学環境サークルG-amet（ジャメット）のメンバーがサークルの活動内容について発表し、「東海学園賞」を受賞しました。

ともいきSDGsシンポジウムは「東海学園大学ともいき教養教育機構」が開催するもので、今回が第一回目の開催です。本シンポジウムのプログラムの一つであるチャレンジアワード東学では、全国の小学生から大学生までの各団体がSDGsへの取り組みや活動の成果発表を行いました。発表会には小学生から大学生までの48団体から応募があり、そのうちノミネートされたG-ametを含め6団体が受賞となりました。

10月13日（木）には、G-ametのメンバーが学長室を訪問し、吉田学長へ受賞について報告しました。G-ametの学生は、古本市や鷺ヶ池自然再生プロジェクト等のサークル活動について紹介し、「環境について自分たちでできることを考えながら活動しています」と話しました。吉田学長は、「大学の取り組みには学生の活動が大切です。ぜひ活動を続け、後輩にも引き継いでください」と激励しました。

岐阜大学は今後も様々な環境活動を推進し、持続可能な社会への貢献を目指します。



発表の様子



受賞報告の様子



## 「ISO14001内部環境監査員養成研修」 修了証書授与式を実施

### 【概要】

令和4年11月22日（火）「ISO14001内部環境監査員養成研修」修了証書授与式を、吉田学長、杉山環境対策室長（副学長）、統括環境管理責任者の八代田教授（応用生物科学部）列席のもと行い、今年度は15名の学生に授与が行われました。

本学では、附属病院を除く全学で環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001を認証取得しており、毎年職員と有志の学生による内部環境監査を行っています。

内部環境監査は、本学の環境マネジメントシステムがISO14001の規格に沿って運用されているかを学内の監査員が確認するものです。学生は教職員とともにISO14001の規格の概要や監査の実施手順について学内外の講師による研修を受けたうえで、実際に内部環境監査に監査員として、学生からの目線で監査を行いました。

授与式では、学長から本研修を修了した学生一人ひとりに修了証書が授与されました。その後の意見交換で、学生は「大学の組織の一員となって活動することで、大学の運営に少し関わることができたように思う。内部環境監査員として活動できて良かった。」と話しました。

学長からは「内部環境監査では、学生の皆さんから様々な意見をいただいた。学生が今回の監査に携わってくれたことを誇りに思う。大学として人材育成に寄与できていると感じている。この経験を活かして、ぜひ地球に向き合う人材になってほしい。」と激励の言葉が贈られました。

研修を終えた学生たちの今後の更なる環境配慮活動に期待しています。



集合写真

## 本学学生が未来博士3分間コンペション2022 においてSpringer Nature Awardを受賞

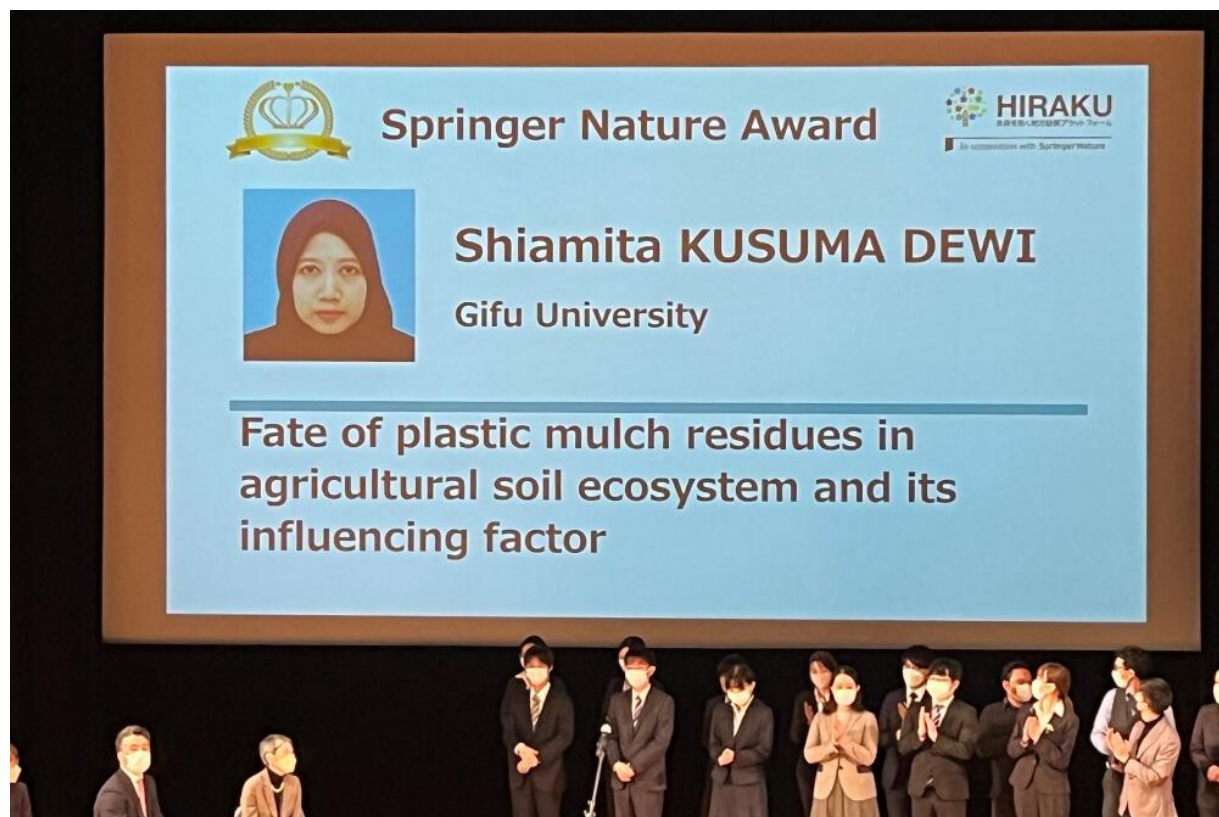
### 【概要】

令和4年11月23日（水）に行われました未来博士3分間コンペション2022において連合農学研究科2年 Shiamita Kusuma DewiさんがSpringer Nature Awardを受賞しました。

このコンペションは、「未来を拓く地方協奏プラットフォーム（HIRAKU）」（代表機関：広島大学）主催で博士課程の学生がスライド1枚3分間で自分の研究についてプレゼンテーションを行うものです。研究内容はもとより、専門外の審査員にいかにかかりやすくプレゼンするかが問われます。本学の学生は英語プレゼン部門で6名がエントリーしました。

Springer Nature Awardを受賞したShiamita Kusuma Dewiさんは、農業用マルチング材残渣の土壌生態系における動態とその影響要因について発表しました。

受賞にあたりShiamita Kusuma Dewiさんは「驚きと感謝の気持ちでいっぱいです。この受賞のおかげで自分に自信がつき、今後も研究者としての自分を磨き、より社会に貢献していきたい」と述べました。



Springer Nature Award受賞を知らせるスライド

## 「考えようSDGs！エコ活動啓発ポスターコンクール」を開催

### 【概要】

本学は、本学教育学部附属小中学校の児童生徒を対象に「考えようSDGs！エコ活動啓発ポスターコンクール」を開催しました。

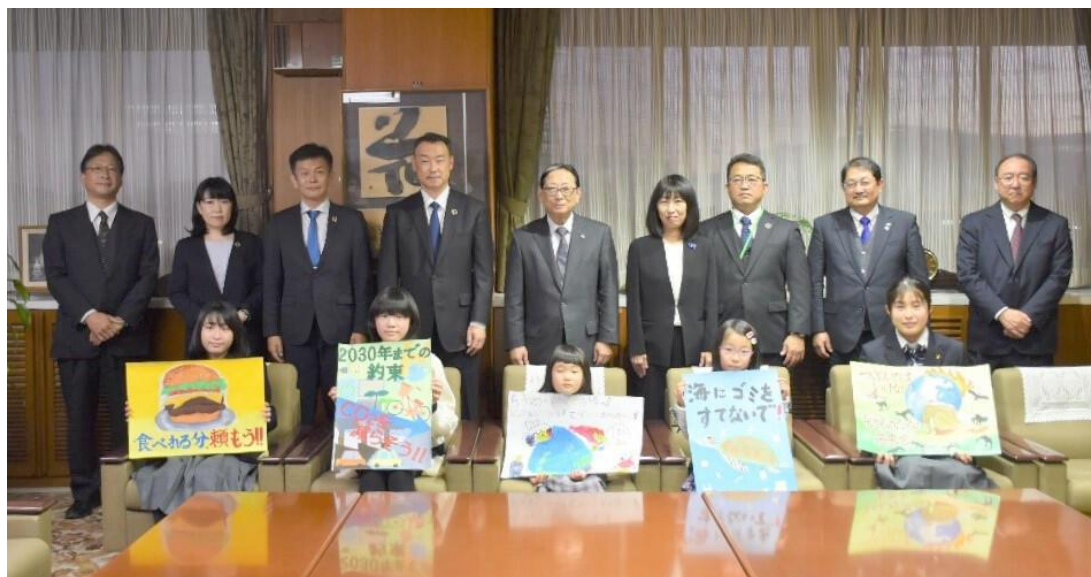
このコンクールは、十六銀行と締結した環境保全における連携に関する覚書の一環として、SDGsについて考え、省エネ、環境美化運動やごみ減量など身近な視点から、エコ活動を啓発する目的で実施したものです。ポスターの募集企画は12回目です。厳正な審査の結果、優秀賞3作品、岐阜大学長賞、十六フィナンシャルグループ賞及び十六銀行賞各1作品を決定しました。

令和4年12月15日（木）には、本学学長室にて受賞作品の表彰式を行いました。表彰式では、受賞した児童生徒一人ひとりに吉田学長より表彰状が、十六銀行の所取締役常務執行役員より副賞が手渡されました。また受賞者に対し、吉田学長からは「一枚一枚の絵から、みなさんの思いを受け取りました。ぜひみなさんが中心となってエコ活動を広めていってほしい」、所取締役からは「環境保全に関する取り組みは大切。我々も一緒に取り組んでいきたい」と言葉がかけられました。これを受け、丸山附属小中学校統括校長は「この取り組みを通して、自分達で情報を取捨選択しながら、勉強して作り上げたことはすばらしいと思います。学びの機会を得られたことに感謝し、今後も学びを広めていってほしい」と述べられました。

また、優秀賞を受賞した9年生の草野菜さんは「授業で絶滅危惧種が多いと知り、保護を訴えたい」とポスターに込められた思いを語りました。

受賞作品はこれまで本学の図書館に展示され、地域の方も含め多くの方にご覧いただきました。今後は、十六銀行加納支店で令和5年1月10日（火）～20日（金）、十六銀行岐南支店で令和5年1月23日（月）～2月3日（金）の期間展示する予定です。

本活動が環境について考えるきっかけとなり、エコ活動が広がっていくことを期待しています。



受賞した児童・生徒との記念撮影



### 優秀賞受賞作品



手綱 唯 さん (2年)  
「ゴミをすてないで」



澤田 美希羽 さん (5年)  
「今、自分ができること」



草野 栞 さん (9年)  
「つぶしてはいけなくない 生き物たちの未来を」

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/12/16	岐阜	エコ啓発ポスター 入賞生徒らを表彰 岐阜大と十六銀 ～吉田和弘 学長，教育学部附属小中学校 9年 草野栞さん～



## 本学学生が「キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」で教員審査委員賞を、「ビジネス創造コンテスト」で最優秀賞等を受賞

### 【概要】

令和5年2月3日（金）に行われました第19回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会において自然科学技術研究科1年 佐藤綾音さんと郷智彦さんのグループが教員審査委員賞を受賞しました。また、2月3日（金）に行われました第13回ビジネス創造コンテストにおいて、応用生物科学部1年 伊藤思音さんと工学部2年 小林功英さんのグループが最優秀賞とグローバルビジネス賞を受賞しました。

佐藤さんと郷さんのグループは大会において髪の毛に小さな穴をあけ、そこに色素を入れることで髪染めを行うビジネスプランを、伊藤さんと小林さんはコンテストにおいてフィリピンで輸送中の傷などで捨てられるバナナをパウダーにし、利用するビジネスプランを発表しました。

2月24日（金）には、学長へ結果報告を行いました。佐藤さんと郷さんは「髪染めの色がまだ1ヶ月程度で落ちてくる。もっと色持ちを良くしていきたい」、伊藤さんと小林さんは「言葉の壁が課題であり、英語を頑張っていきたい」と話しました。吉田学長は、「次のステップに進んでくれることを期待している」と激励しました。



受賞報告の様子



集合写真

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/2/6	日刊工業	キャンパスベンチャーグランプリ全国大会 優位性・計画性・熱意を評価 ～【教員審査委員賞】大学院生・佐藤綾音さん～

## 「本学教育学研究科を修了した赤松諒一さんが 第10回アジア室内陸上競技選手権大会で優勝

### 【概要】

令和5年2月10日（金）～12日（日）にかけて、カザフスタン・アスタナで行われた「第10回アジア室内陸上競技選手権大会」において、2020年に本学教育学研究科を修了した（現アワーズ株式会社所属、本学医学系研究科研究生）赤松諒一さんが男子走高跳びに出場し、自己ベストである2m28cmを跳び、優勝し金メダルを獲得しました。また、その前週に行われました「2023日本室内陸上競技大阪大会」でも2m27cmを跳び、大会新記録で優勝しています。

2月21日（火）には、赤松さんと専任コーチである陸上競技部顧問の林陵平助教が学長室を訪問し、優勝の報告を行いました。赤松さんは「助走を変えたことで自己ベストが跳べ、結果につながった。今後もさらに記録を伸ばしていきたい」と話しました。吉田学長からは、「コーチである林先生と共に2人3脚で頑張って壁を越えてほしい」と激励しました。



学長報告の様子



集合写真

（左から、杉山副学長、林助教、赤松さん、吉田学長）

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/2/6	岐阜	赤松が大会新V 男子走り高跳び 日本室内選手権 ～ 赤松諒一さん（岐阜大院出）～
2023/2/18	岐阜	アジア室内陸上 男子走り高跳びV 赤松「世界標準目指す」 ～ 赤松諒一さん（岐阜大院出）～
2023/2/22	中日	走り高跳びの目標 より高く 日本室内選手権などV 赤松選手が抱負 ～ 医学系研究科研究生 赤松諒一さん～

# その他



- ・ 第73回創立記念日行事を開催
- ・ サステナブルキャンパス評価システム(ASCC)におけるプラチナ認証を取得
- ・ 大藪千穂 副学長（多様性・人権・図書館担当）が第8回女性技術者育成功労賞を受賞
- ・ 岐阜大学が「ぎふし共育・女性活躍企業」に認定
- ・ 第73回岐阜新聞大賞
- ・ 第1回岐阜大学フォト&アートコンテスト表彰式を実施

## 【国立大学法人東海国立大学機構】

- ・ 東海国立大学機構・ドワンゴ・KADOKAWAによる包括的提携協定の締結
- ・ 東海国立大学機構カーボンニュートラル推進室主催 記念シンポジウムを開催
- ・ 国立大学法人東海国立大学機構環境報告書2022を公表
- ・ 財務レポート2022を発行
- ・ 「サステナブルキャンパス賞2022 大学運営・地域連携部門」を受賞
- ・ 東海国立大学機構統合報告書2022を発行
- ・ 「ヒューマングライコムプロジェクト」本格始動！
- ・ 富士通株式会社との包括的な産学連携に関する協定書を締結
- ・ 「第31回地球環境大賞 文部科学大臣賞」を受賞



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立  
大学機構



岐阜大学



## 第73回創立記念日行事を開催

### 【概要】

本学は令和4年6月1日で創立73周年を迎えたことから、講堂にて学内外の関係者など約50名が出席のもと、創立記念日行事を開催しました。

式典中、教育研究活動において特に顕著な業績を挙げ、また社会活動において高い評価を受け、本学の名誉を著しく高めた方を表彰する同窓会連合会会長表彰も行われました。今年度は、本学卒業後、パイロットインキ株式会社に入社し、消せるボールペン（フリクションボール）のインクの開発を行った中筋 憲一氏と、本学卒業後、広江国際特許商標事務所（現：弁理士法人 広江アソシエイツ特許事務所）を開設され、平成13年に特許庁長官表彰として知財功労賞を受賞し、平成23年には黄綬褒章を授与された廣江 武典氏が表彰されました。

また、学長報告では吉田和弘学長から、法人統合による効果や取組内容、研究力の強み、産学官連携の状況及び地域活性化における実績等について触れ、今後、地域の中核を担う大学として大きな役割を果たしていく決意が語られました。

本式典は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため規模を縮小しての開催となりました。そのため、式典の様子を岐阜大学公式ホームページにおいて、動画配信しておりますので、どうぞご視聴ください。



同窓会連合会会長表彰の様子



右：中筋 憲一 氏



右：廣江 武典 氏



# サステイナブルキャンパス評価システム(ASSC)における プラチナ認証を取得

## 【概要】

岐阜大学は一般社団法人サステイナブルキャンパス推進協議会（CAS-Net JAPAN）が主催するサステイナブルキャンパス評価システム（ASSC）においてプラチナ認証を受け、令和4年7月16日（土）に行われた認定証交付式にて、朴恵淑代表理事より認定証が交付されました。



認定書

ASSCはサステイナブルキャンパス推進協議会（CAS-Net JAPAN）が、「持続可能な環境配慮型社会の構築に貢献する大学キャンパス」を促進する取組みの一環として導入した評価・認定制度で、「運営」「教育と研究」「環境」「地域社会」の各部門について分析評価するものです。2014年の本システム始動後、ASSCへの回答提出校（試行含む）は延べ103大学ありますが、プラチナ認定を受けたのは本学を含め4大学のみです。

本学は2018年度にゴールド認証を受けており、その際の分析評価をもとに継続的な改善を行った結果、総合得点率は2018年度の71.5%から91.6%に上がり、今回最上位のプラチナ認証を獲得することが出来ました。



交付式



学長報告

## 大藪千穂 副学長（多様性・人権・図書館担当）が 第8回女性技術者育成功労賞を受賞

### 【概要】

令和4年8月10日（水）に行われました第8回 女性技術者育成功労賞表彰式（主催：一般社団法人技術同友会）において、本学 大藪千穂 副学長（多様性・人権・図書館担当）が第8回女性技術者育成功労賞を受賞しました。

女性技術者育成功労賞は産業界における女性技術者の活躍の場の拡大を推進・支援するために、ダイバーシティ推進委員会活動の一環として、女性技術者(含む研究者)育成において顕著な成果を上げた個人(男女を問わず)の方々の功績をたたえる賞です。

このたびの受賞では、女性研究者の育成、支援活動を主導され、研究補助員配置、メンター制度、子育て・介護・在宅研究支援など、幅広い環境整備のほか、キャリアパス支援・リーダーシップ研修などの活動を展開したことが評価されました。

8月29日（月）には、大藪副学長が学長室を訪問し、受賞の報告を行いました。大藪副学長は「女性研究者の支援や、男女共同参画に関する出前講義やシンポジウムなど、これまでの岐阜大学の男女共同参画推進室の取組が評価されたと思っている」と話しました。吉田学長からは、「産業界がメインとなる賞だが、その中で大学関係者が受賞できたのは大きい」と激励しました。



受賞報告の様子



記念写真

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/8/31	岐阜	女性研究者の育成に貢献 大藪岐阜大副学長が全国功労賞 育児との両立制度を導入 ～ 大藪千穂 副学長 ～
2022/9/1	中日	女性研究者の育成支援たたえ功労賞 岐阜大副学長受賞 ～ 大藪千穂 副学長, 吉田和弘 学長 ～
2022/9/1	日刊工業	「第8回女性技術者育成功労賞」 庄司東京海洋大理事ら13人 技術同友会 ～ 大藪千穂 副学長 ～

## 岐阜大学が「ぎふし共育・女性活躍企業」に認定

### 【概要】

令和5年2月10日（金）に行われました「令和4年度ぎふし共育・女性活躍企業認定式」において、本学が認定を受け、柴橋正直岐阜市長から表彰されました。

岐阜市では、令和元年度から企業による子育て支援や女性活躍の機運を高め、社会全体で男性の育児参画や女性活躍の推進を図ることを目的として、仕事と生活の両立や男女が共に働きやすい職場環境を作り、男性の主体的な育児参画により、夫婦で共に子育てを行う「共育」を推進する取り組みを行う企業や、女性とその個性と能力を十分に発揮して社会で活躍できるような取り組みを積極的に行う企業を「ぎふし共育・女性活躍企業」に認定しています。

この度の審査では、本学がテレワークをはじめとする多様な働き方の推進、女性の活躍推進、男性の育児参画、ハラスメント対策などの取組を評価され、令和2年度から令和4年度までの3年間に引き続き、令和5年度から令和7年度の3年間について「共育企業部門」と「女性活躍企業部門」の両方で再び認定を受けました。

大藪副学長（多様性・人権・図書館担当）が2月13日（月）に学長室を訪問し、認定の報告を行いました。大藪副学長は、「これまでの本学の男女共同参画推進の取り組みが認められた。これからも女性研究者比率をあげるなど進めていきたい。」と話しました。吉田学長は、「男女がともに個性と能力を発揮し活躍できる大学環境を実現するために、男女共同参画推進の取り組みをより一層進める必要がある」と激励しました。

本学を運営する東海国立大学機構は令和4年12月に「DEIB宣言」(Diversity, Equity, Inclusion & Belonging)を行い、本学としても全ての教職員や学生が心地よく働き、学べる大学を目指しています。



ぎふし共育・女性活躍企業認定証



学長報告時の集合写真

## 第73回岐阜新聞大賞

### 【概要】

学識経験者らによる選考委員会（委員長：吉田和弘 岐阜大学長）で慎重に審査した結果、令和4年度「第73回岐阜新聞大賞」が5氏、1団体に贈呈され、学術部門では、本学副学長の杉山 誠 氏、名誉教授の村上 啓雄 氏が受賞しました。

贈呈式は令和5年2月11日（土）に岐阜放送テレビスタジオにて行われました。

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/1/6	岐阜	「第73回岐阜新聞大賞」決まる ～ 学術部門 杉山誠副学長, 村上啓雄 名誉教授 ～
2023/1/30	岐阜	輝く功績 第73回岐阜新聞大賞受賞者 人獣共通の感染症研究 ～【学術部門】副学長 杉山誠氏～
2023/1/31	岐阜	輝く功績 第73回岐阜新聞大賞受賞者② ウイルスとの闘い 献身 ～【学術部門】村上啓雄 名誉教授～
2023/2/12	岐阜	さらなる飛躍, 貢献誓う 岐阜新聞大賞贈呈式 5氏1団体が喜び ～【学術部門】杉山誠 副学長, 村上啓雄 名誉教授, 選考委員長 吉田和弘 学長～



## 第1回岐阜大学フォト&アートコンテスト表彰式を実施

### 【概要】

令和5年3月3日（金）に、第1回岐阜大学フォト&アートコンテスト表彰式を実施しました。

この度、本学では、学生・教職員が大学での生活やキャンパス風景の中で日ごろから感じている魅力について、学内外へ広く発信することを目的として第1回岐阜大学フォト&アートコンテストを開催しました。本学所属の学生、教職員を対象に募集を行い、総計156点もの応募がありました。

厳正なる審査の結果、9点の作品が見事栄誉に輝きました。

表彰式では、杉山誠副学長から「岐阜大学には、大学に関する良い写真やアートを持っている人がたくさんいるので、それを発信していくことで、学内外のみなさまやステークホルダーに対して大学で活動している姿をお見せしていきたいと考えています。素敵な写真やアートをお送りいただきありがとうございます」と挨拶があり、中川寅学長補佐とともに表彰状と記念品を授与しました。

入選者を代表して最優秀賞を受賞した山田敏弘さんからは、「"冬はつとめて 雪の降りたるはいふべきにもあらず"、岐阜大学は朝早くに来るとこんなきれいな風景もあるんだということで、この風景を写真に収めました。最優秀賞ということうれしく思っています」とコメントをいただきました。

今後は、受賞作品の学内展示や引き続き本学の魅力発信に向けた第2回フォト&アートコンテスト（仮）の開催を予定しています。



最優秀賞を受賞した山田敏弘さん



学長報告時の集合写真

## 国立大学法人東海国立大学機構

(東海国立大学機構・ドワンゴ・KADOKAWAによる包括的提携協定の締結)

### 【概要】

東海国立大学機構は、この度、株式会社ドワンゴ、株式会社KADOKAWAと包括的提携協定を締結し、東海国立大学機構が掲げる※「デジタルユニバーシティ構想」に基づいて、高校生を中心とした次世代へのSTEAM教育や、社会人を中心とした専門性の高いリカレント教育を展開することを中心に、大学機能の拡大に共同で取り組むことで合意しました。

令和4年7月22日(金)には、文部科学省記者会見室において3者による記者会見を実施し、提携に至った背景や包括的提携における取組について、説明しました。

今回の合意に基づき、東海国立大学機構が注力している社会課題解決のための最先端の研究を中心とした講義コンテンツを、ドワンゴが運営支援しているN高・S高生をはじめ広く社会に提供し、先端技術の意義や重要性をリアルに感じてもらうことで、学習意欲の向上を図り、将来のイノベーションエコシステムを支える人材を育成します。一方で社会人向けには、動画配信事業に取り組んできたドワンゴが、東海国立大学機構が取り組んでいる社会人向けのデータサイエンティスト教育を支援することで、オンラインを活用したリカレント教育の効率的・効果的な運営方法を共同開発し、他大学や教育機関に利活用頂けるよう提供していきます。

※「デジタルユニバーシティ構想」とは、東海国立大学機構が掲げる大学変革構想で、デジタル技術を活用して、大学外の様々な人々が大学の資源にアクセスできる環境を構築し、公共財としての大学機能を大幅に拡張をすることを目指すものです。



記者会見の様子

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/7/23	岐阜	最先端研究を動画配信 東海国立大機構，ドワンゴと協定 ～ 東海国立大学機構 ～
2022/7/23	中日	大学にもっとデジタルを 東海国立大機構×ドワンゴなど 先端講義配信など提携 ～ 東海国立大学機構 ～

## 国立大学法人東海国立大学機構

(東海国立大学機構カーボンニュートラル推進室主催 記念シンポジウムを開催)

### 【概要】

2022年9月6日(火)に東海国立大学機構 カーボンニュートラル推進室主催の記念シンポジウムが開催されました。本シンポジウムは会場参加・オンライン参加合わせて250名を超える方にご参加いただきました。

本シンポジウムの第1部前半では当機構執行部による挨拶と文部科学大臣政務官 山本 左近 様よりご挨拶をいただきました。また、後半ではカーボンニュートラル推進室 西澤 泰彦 室長により、当機構内におけるカーボンニュートラル研究推進体制ならびに産学官連携推進案に関する説明が行われました。

第2部前半ではJST社会技術研究開発センター(RISTEX) センター長の小林 傳司 氏(大阪大学名誉教授)をお招きし、「総合知が求められる時代」と題してご講演いただきました。科学技術政策や社会の変遷、国内外での実際の取組を交え、なぜ「総合知」が求められるようになったか、カーボンニュートラルなどの社会的課題解決への貢献等、今後大学に期待される役割や、総合大学における文理融合を実現するための課題や解決のための指針についてご紹介いただきました。

第2部後半では小林 傳司 氏に当機構の教員4名と中部経済連合会 黒柳 考司 審議役を加えた6名により、「多様な知の協働による課題解決を目指して」というテーマで、パネルディスカッションを行いました。異なる専門分野を持つ教員や産業界からの様々な目線で、産学官による協働を実現するために必要な事項について議論を行いました。

第3部では当機構のカーボンニュートラル関連の研究を行っている教員と会場参加者を交えた情報交換会を行いました。また、会場外にてデジタルサイネージによる関係教員の研究紹介ポスターの上映を行いました。



文部科学大臣政務官 山本 左近 様 ご挨拶



シンポジウムの様子

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/9/7	中日	脱炭素研究組織の役割議論 名大, 岐大, 中経連がシンポジウム ～ 東海国立大学機構 ～



# 国立大学法人東海国立大学機構

## (国立大学法人東海国立大学機構環境報告書2022を公表)

### 【概要】

令和4年9月27日、国立大学法人東海国立大学機構の環境報告書2022を公表しました。

今年度の環境報告書では、機構長と2022年に新しく就任した岐阜大学学長と名古屋大学総長によるトップ鼎談としてカーボンニュートラルに向けた思いを語っていただいています。また第一号に引き続き、研究に関するインタビュー記事や学生対談など、多数の学生に編集に参加してもらうことで学生の相互交流進め、その他表紙作品の公募など新たな試みに多く挑戦し、より発展させた新たな1冊となりました。



### カーボンニュートラルに挑む 東海国立大学機構 - 大学から地域へ、世界へ -

松尾清一 機構長 × 吉田和弘 名古屋大学学長 × 杉山直道 岐阜大学学長 鼎談

東海国立大学機構の環境報告書2022は、カーボンニュートラルに向けた思いを語っていただいています。また第一号に引き続き、研究に関するインタビュー記事や学生対談など、多数の学生に編集に参加してもらうことで学生の相互交流進め、その他表紙作品の公募など新たな試みに多く挑戦し、より発展させた新たな1冊となりました。

**吉田和弘** (KAZUHIRO YOSHIDA) 名古屋大学学長

**杉山直道** (NAOYUKI SUGIYAMA) 岐阜大学学長

**松尾清一** (SHIHEI MATSUO) 東海国立大学機構 機構長

※ 環境報告書2022下記のURLよりダウンロードできます。  
[https://www.thers.ac.jp/disclosure/upload/20220927\\_kankyo.pdf](https://www.thers.ac.jp/disclosure/upload/20220927_kankyo.pdf)



# 国立大学法人東海国立大学機構 (財務レポート2022を発行)

## 【概要】

東海国立大学機構では、岐阜大学と名古屋大学の財務状態や経営状況を分かりやすく解説し、両大学の運営・活動を財務の観点から広くご理解いただくことを目的として、「財務レポート」を作成しています。

このたび、文部科学大臣により承認を受けた2021（令和3）事業年度財務諸表をもとに「財務レポート2022」を令和4年10月20日に発行しました。

国立大学法人 東海国立大学機構

財務レポート2022

事業年度：2021年4月1日～2022年3月31日

Tokai National Higher Education and Research System  
Financial Report 2022



MAKE NEW STANDARDS.  
東海国立大学機構

岐阜大学 名古屋大学

### 1. 国立大学法人東海国立大学機構について

●国立大学法人東海国立大学機構の創設について

世界と日本がつかない規模とスピードで激変していく中で、国立大学法人岐阜大学と国立大学法人名古屋大学は、法策は向けず教育研究機能を体系的に強化し、東海地域の持続的発展に一層貢献するため、2019年4月以降、一法人複数大学による機構設立に向けて協議を重ねてきました。

その後、関係省の賛成からの多大なるご支援により2019年5月24日に「学校教育法の一部を改正する法律」（令和元年法律第11号）が公布され、この法律が施行された2020年4月1日に国立大学法人岐阜大学・国立大学法人名古屋大学は統合し、国立大学法人東海国立大学機構が創設されました。

国立大学法人東海国立大学機構は、大学・産業界・地域の発展の好循環を創出する我が国の新しいモデル、国際的な競争力向上と地域創成への貢献を担ってまいります。

本大学と名古屋大学の強みのある分野を中心に、世界最高水準の研究を進展することによる知の中間的応用性のある質の高い教育の実現を目指します。

国立大学法人東海国立大学機構の基本情報

	岐阜大学	名古屋大学
規模	6学部 8研究科 (附属施設併数：614)	9学部 13研究科 (附属施設併数：1,090)
人数	学部学生 5,844人 大学院学生 1,997人 研究生等 163人 附属学校生徒 344人	学部学生 9,526人 大学院学生 6,309人 研究生等 458人 附属学校生徒 595人
職員	職員 1,121人 (常勤602・非常勤519) 職員 2,008人 (常勤954・非常勤1,054)	職員 2,280人 (常勤1,705・非常勤575) 職員 5,270人 (常勤4,246・非常勤1,024)
規模	延床 6,235,227㎡(内3,321,096㎡が敷地) 建物 328,180㎡(内3,342㎡が敷地)	土地 1,627,035㎡(内1,572,985㎡が敷地) 建物 809,848㎡(内2,088㎡が敷地)

### 2. 財務諸表・財務レポート等による説明責任

投資料  
入学料  
寄附料 等

地域の方々  
寄附金 等

県民の方々  
助産報酬

企業の方々  
委託研究費  
共同研究費  
寄附金 等

国  
(国民の皆様の税金)  
運営費交付金  
補助金 等

財務諸表・財務レポート等による説明責任

※ 財務レポート2022は下記のURLよりダウンロードできます。  
<https://www.thers.ac.jp/disclosure/finance/index.html>

## 国立大学法人東海国立大学機構

(サステイナブルキャンパス賞2022 大学運営・地域連携部門 を受賞)

### 【概要】

令和4年12月3日(土)に行われた一般社団法人サステイナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)の「第10回サステイナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)2022年次大会」(於三重大学)において、東海国立大学機構が「サステイナブルキャンパス賞2022 大学運営・地域連携部門」を受賞しました。

サステイナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)は、サステイナブルキャンパス構築の取組を推進し、持続可能な環境配慮型社会の構築に貢献することを目的として活動しており、「建築・設備部門」、「大学運営・地域連携部門」、「学生活動部門」の3部門において、優れたサステイナブルキャンパス構築に係る取組事例を表彰しています。

今回の受賞では、東海国立大学機構の環境報告書が「新たな国立大学のモデル『東海国立大学機構』として一体感のある初の環境報告書」として評価を受けました。表彰式での受賞講演では、林 瑠美子 名古屋大学環境安全衛生管理室准教授(環境報告書2022編集委員長)が「国立大学の法人統合に際して、環境報告書を単に合冊のように編集するのではなく、対談企画の盛り込みや、学生の活動参加、他大学との環境コミュニケーションなど、様々な視点を加えながら作り上げた。法人統合によるサステイナブルキャンパス構築のモデルケースとなっていきたい」と話しました。この講演により、受賞団体の中から優れたプレゼンテーションに贈られる「特別賞」も受賞しました。

東海国立大学機構は、今後も様々な環境活動を推進し、サステイナブルなキャンパスの実現を目指します。



サステイナブルキャンパス賞  
2022表彰状

# 国立大学法人東海国立大学機構

## (東海国立大学機構統合報告書2022を発行)

### 【概要】

令和5年1月12日、東海国立大学機構は、統合報告書2022を発行しました。

本報告書では、東海国立大学機構が目指す姿、ビジョン・戦略について、ステークホルダーへのアカウントビリティの強化を図ることを目的に、分かりやすく伝えるように意識して作成しています。

また、一般の投資家の方にもご理解頂けるように国際統合報告フレームワークで必要とされる8つの内容要素を踏まえ、リスクと機会の分析、外部環境が事業運営に与える影響、事業戦略、アウトプット・アウトカムの一貫性を意識した価値創造ストーリーの構築を目指しました。



※ 統合報告書2022下記のURLよりダウンロードできます。  
<https://www.thers.ac.jp/news/2023/01/20230112-tougou.html>

## 国立大学法人東海国立大学機構

(「ヒューマン glycome プロジェクト」本格始動！)

### 【概要】

文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会の事前評価（報告）が令和4年11月に公表されました。その評価結果や留意点を踏まえ、東海国立大学機構（名古屋大学、岐阜大学）、自然科学研究機構ならびに創価大学が実施主体となり、生命科学領域において初の文部科学省「大規模学術フロンティア促進事業」として「ヒューマン glycome プロジェクト（英語名：Human Glycome Atlas Project：HGA）」を始動することとなりました（代表：門松健治 東海国立大学機構・理事）。

糖鎖は、核酸やタンパク質と並び、生物の生命活動に欠かせない「第3の生命鎖」とされています。本プロジェクトでは、上記3機関が互いに連携し、日本の総力を挙げて糖鎖情報を世界に先駆けて網羅的に読み解くことを目指します。生命機能の解明をさらに推し進め、その成果が医療をはじめとしたさまざまな研究分野で応用されることが期待されます。

令和5年2月16日（木）には、文部科学省記者会見室において、3機関による記者会見を実施しました。記者会見では、3機関の長が本プロジェクトへの意気込みと決意を述べるとともに、本プロジェクトに寄せられた全世界の研究者コミュニティからの期待の声も紹介しました。

※ 当日の様子は以下のページからご覧いただけます。

<https://igcore.thers.ac.jp/news/468-2.html>



記者会見の様子

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/2/17	岐阜	「糖鎖」解明 国内で連携 認知症の予防 鍵握る分子 岐阜大など新プロジェクト 新年度から本格始動～ヒューマン glycome プロジェクト～
2023/2/17	中日	認知症や糖尿病、がん予防への光 名大、岐阜大など世界に先駆け10年計画 「糖鎖」解析本格始動へ～ヒューマン glycome プロジェクト～
2023/2/17	日刊工業	「糖鎖」情報解読で連携 東海国立大機構など 研究基盤確立目指す～ヒューマン glycome プロジェクト～



## 国立大学法人東海国立大学機構

(富士通株式会社との包括的な産学連携に関する協定書を締結)

### 【概要】

国立大学法人東海国立大学機構は、富士通株式会社と、SDGsやSociety5.0の実現に向け、地域に密着した健康と医療の好循環モデルの構築によるウェルビーイング社会の創生や、人類の活動圏が宇宙に広がる近未来を見据えた深宇宙活動における未知の課題を解明する課題探索や技術開発などに関する包括協定を2023年2月24日に締結しました。

東海国立大学機構の健康医療ライフデザイン統合研究教育拠点(以下、C-REX)が持つライフデザインの研究実績および東海圏の医療機関や自治体との連携力と、富士通のAIなどの先進テクノロジーや富士通Japan 株式会社の電子カルテシステムなどから取得するヘルスケアデータを活用した患者中心のエコシステム形成により、ヘルスケア分野における地域課題の解決とサービスの高度化を進め、ウェルビーイング社会の創生を目指します。

宇宙活動における課題探索や技術開発では、名古屋大学宇宙地球環境研究所(以下、ISEE)が持つ世界トップクラスの宇宙天気予測モデルや衛星および地上観測データベースと、富士通のスーパーコンピュータによる大規模シミュレーション技術やAIを用いたデータ解析技術により、宇宙天気予報シミュレーションの高度化や高速化とともに、予報を支える人材の育成や制度化に取り組んでいきます。



両者は、本包括協定に基づき、互いの技術やサービス、地域のフィールドやネットワークを活用した活動を深化させ、テクノロジーとデータを高度に連携させた人を中心とする持続可能な社会の実現に貢献していきます。

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/2/25	中日	東海国立大学機構×富士通 スパコンやAI活用 技術開発へ包括協定
2023/2/26	中日	富士通と協定結び宇宙研究など促進 東海国立大学機構
2023/2/27	日刊工業	健康・宇宙研究 包括協定結ぶ 東海国立大機構・富士通
2023/2/28	日本経済	東海国立大学機構と富士通 医療・宇宙分野で提携 データ分析技術生かす

# 国立大学法人東海国立大学機構 (「第31回地球環境大賞 文部科学大臣賞」を受賞)

## 【概要】

国立大学法人東海国立大学機構（以下、「東海機構」）は、令和5年3月1日に「第31回地球環境大賞 文部科学大臣賞」を受賞しました。

地球環境大賞は、1992年（平成4年）に「産業の発展と地球環境との共生」を旨として創設された、フジサンケイグループが主催する顕彰制度です。地球温暖化の防止、循環型社会の実現に寄与する新技術・新製品の開発、環境保全活動・事業の促進、21世紀の社会システムの探求、地球環境に対する保全意識の一段の向上を目的としており、経済産業省・環境省・文部科学省・国土交通省・農林水産省・総務省・日本経済団体連合会及び日本商工会議所が後援しています。

今回の東海機構の受賞は、東海機構のスタートアップビジョンの一つ「社会・産業の課題解決を通じた国際社会と地域創生への貢献」で示している「東海地域の大学・産業界・地域発展の好循環モデル（TOKAI-PRACTISS）」構想を推進するために、カーボンニュートラル推進室を設立し、カーボンニュートラル実現を目指していること、また、「地球の危機」に対して、岐阜大学及び名古屋大学の「総合知」で、世界最高水準の最先端研究や文理融合・超学際による課題解決に取り組み、次世代の新たな価値創造に貢献する数々の研究を進めていることが評価されました。なお、授賞式は、令和5年4月17日に明治記念館にて開催される予定です。

